

証券コード6859

エスペック株式会社

2026年度(2027年3月期)第1四半期決算説明

2026年8月21日

2026年度第1四半期 決算概要

- ・受注高は、中計ターゲット市場のAI半導体分野、衛星通信分野が好調、欧州・韓国も回復し、前年同期比・予想比で大幅増
- ・売上高は、前年同期比で増加も、顧客都合により環境試験器・エナジーデバイス装置の大型案件の計上時期が第2四半期となり予想を下回る
- ・営業利益は、受注高の伸長に伴い販管費は増加したが、増収により前年同期比で増加、予想比では主に装置事業の売上計上時期のずれにより下回る

	前年同期比		予想比	
受注高	○	装置事業(環境試験器、エナジーデバイス装置)が増加、サービス事業(受託試験)とその他事業が減少	○	装置事業(すべての製品群)とその他事業が上回る、サービス事業は主に受託試験が下回る
売上高	○	装置事業(環境試験器)とその他事業が増加、サービス事業(受託試験)が減少	×	すべての事業が下回る 装置事業は主に大型案件の売上計上時期が2Qとなり未達、サービス事業は受託試験が下回る
営業利益	○	装置事業は増収により増加、サービス事業は主に受託試験の減収により減少、その他事業は赤字幅縮小	×	主に装置事業の売上計上時期の2Qへのずれ、受託試験の減収により下回る
親会社株主に帰属する 当期純利益	○	営業利益の増加により増益	×	営業利益の未達より下回る

■ 株主還元 配当予想: 中間45円、期末70円、年間115円 配当性向41.2%

自社株買い: 2025年11月14日～2026年7月30日、90万株、32億円取得終了

2026年8月7日～2027年7月31日、上限130万株(発行済株式総数6.07%)、上限60億円を発表

損益の状況

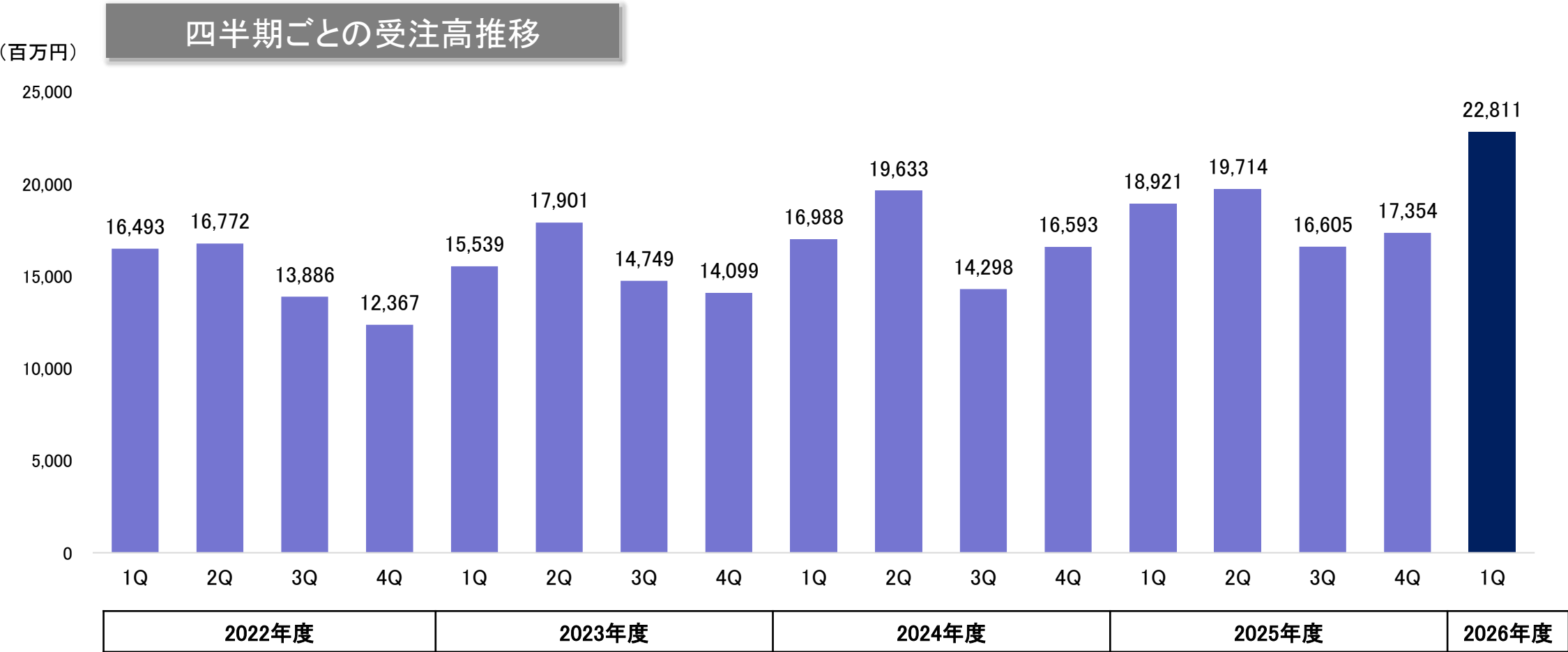
(百万円)	2025年度 1Q実績	2026年度 1Q実績	前年同期比
受注高	18,921	22,811	+20.6%
売上高	12,323	13,922	+13.0%
売上原価 原価率	8,125 65.9%	9,187 66.0%	+13.1% +0.1pt
売上総利益 利益率	4,197 34.1%	4,735 34.0%	+12.8% △0.1pt
販管費 販管費率	3,862 31.3%	4,353 31.3%	+12.7% ±0pt
営業利益 利益率	335 2.7%	382 2.7%	+14.1% ±0pt
経常利益 利益率	344 2.8%	527 3.8%	+53.1% +1.0pt
親会社株主に帰属する当期純利益 利益率	107 0.9%	155 1.1%	+43.9% +0.2pt

セグメント別の損益の状況

(百万円)		2025年度 1Q実績	2026年度 1Q実績	前年同期比
装置事業	受注高	15,755	20,341	+29.1%
	売上高	10,344	11,963	+15.7%
	営業利益	418	480	+14.8%
	利益率	4.0%	4.0%	±0pt
サービス事業	受注高	2,266	2,077	△8.3%
	売上高	1,832	1,763	△3.8%
	営業利益	△41	△74	－
	利益率	△2.3%	△4.2%	△1.9pt
その他事業	受注高	1,025	531	△48.1%
	売上高	256	330	+29.1%
	営業利益	△41	△20	－
	利益率	△16.4%	△6.2%	+10.2pt
連結消去	受注高	△125	△139	－
	売上高	△109	△134	－
	営業利益	△0	△3	－
計	受注高	18,921	22,811	+20.6%
	売上高	12,323	13,922	+13.0%
	営業利益	335	382	+14.1%
	利益率	2.7%	2.7%	±0pt

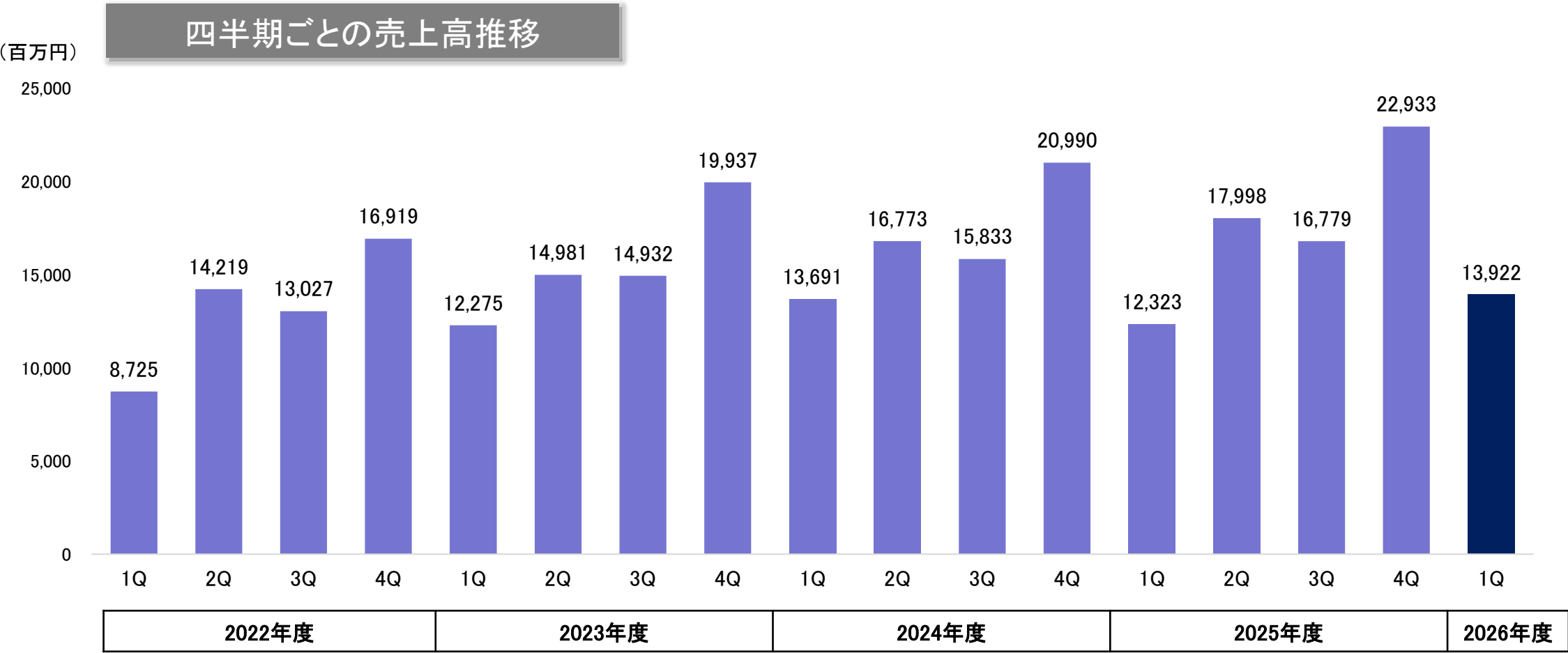
四半期ごとの受注高推移

■受注高は、AI半導体分野、衛星通信分野が好調に推移（ターゲット市場 前年同期比約20%増）、
エリアでは、北米、中国が好調、欧州、韓国も回復、四半期受注高が初めて200億円超となり大幅伸長



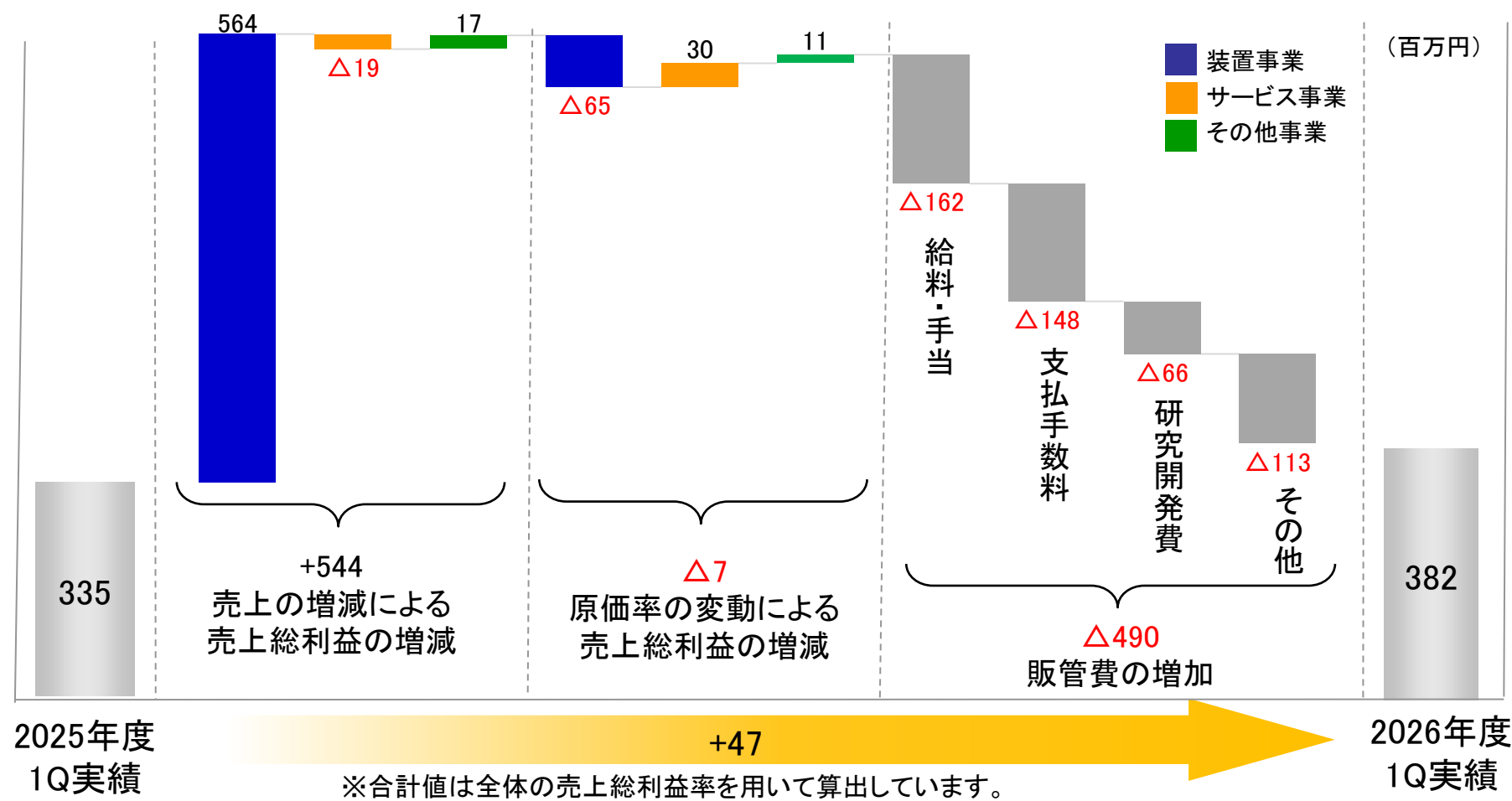
四半期ごとの売上高推移

■売上高は、環境試験器・エネルギーデバイス装置において、主に顧客都合により
大型案件の売上計上時期が2Qとなったが前年同期を上回る



営業利益の増減要因分析

- ・装置事業は、原価率は主に中国市場にて悪化したが、増収により増益
- ・サービス事業は、アフターサービスは技術料改定により収益性は改善したが、受託試験の減収により減益
- ・受注高の伸長による活動費および商品価値向上に向けた研究開発費の拡大により、販管費が増加



装置事業セグメント

(百万円)	2025年度 1Q実績	2026年度 1Q実績	前年同期比
受注高	15,755	20,341	+29.1%
売上高	10,344	11,963	+15.7%
営業利益	418	480	+14.8%
利益率	4.0%	4.0%	±0pt

環境試験器

- 国内では、受注高は汎用性の高い標準製品、カスタム製品ともに前年同期並み、売上高は大型案件の計上時期が第2四半期にずれ込んだことにより減少
- 海外では、受注高は前年同期比で北米、中国において大幅に増加するとともに、欧州、韓国、東南アジアも増加
売上高は北米、中国、東南アジア、台湾が増加し、韓国は減少

エナジーデバイス装置

- 受注高はEVバッテリー向け充放電評価システムの案件を獲得し、前年同期比で増加、
売上高は大型案件の計上時期が第2四半期にずれ込んだことにより減少

半導体関連装置

- 試験需要は堅調に推移するも、第1四半期においては受注高・売上高ともに減少

サービス事業セグメント

(百万円)	2025年度 1Q実績	2026年度 1Q実績	前年同期比
受注高	2,266	2,077	△8.3%
売上高	1,832	1,763	△3.8%
営業利益	△41	△74	－
利益率	△2.3%	△4.2%	△1.9pt

アフターサービス・エンジニアリング

■ 予防保全サービス・修理サービスともに堅調に推移し、前年同期比で受注高・売上高ともに増加

受託試験・レンタル

■ 受託試験サービスにおいて、自動車関連の投資抑制や開発計画変更の影響を受け、前年同期比で受注高・売上高ともに減少

その他事業セグメント

(百万円)	2025年度 1Q実績	2026年度 1Q実績	前年同期比
受注高	1,025	531	△48.1%
売上高	256	330	+29.1%
営業利益 利益率	△41 △16.4%	△20 △6.2%	－ +10.2pt

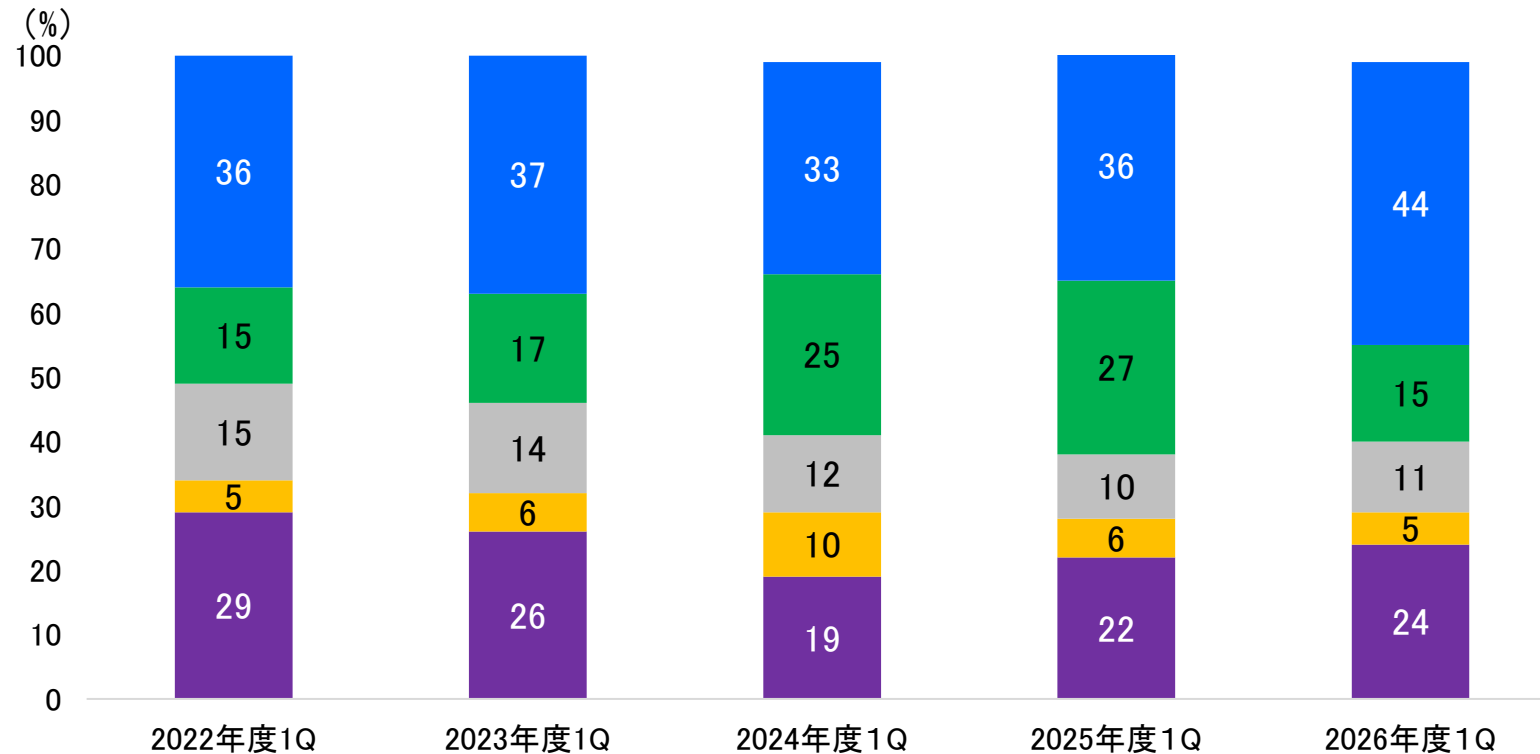
環境保全・植物育成装置

- 受注高は植物工場の大型案件のあった前年同期との比較で減少、
売上高は前期受注の植物工場の計上により増加

市場別売上構成比

- 電子部品・電子機器市場は、AI半導体関連の試験需要が好調に推移し、大きく増加
- 自動車市場は、大型案件の期ズレにより大きく減少

単体(装置事業)



<ターゲット市場との関連>

- ・AI半導体
→ 電子部品・電子機器、半導体市場
- ・自動運転
→ 自動車市場
- ・衛星通信
→ 電子部品・電子機器市場

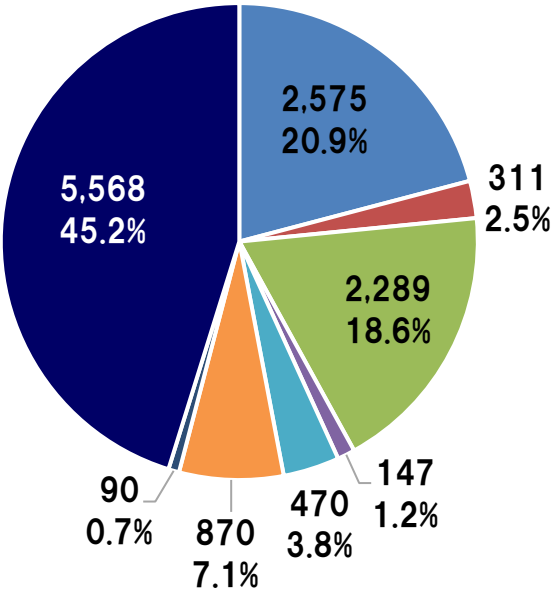
- 電子部品・電子機器市場
- 自動車市場
- 半導体市場
- 研究機関市場
- その他市場

地域別売上構成比

■ 売上高は北米、中国、東南アジア・インド、欧州、台湾が増加、日本、韓国は減少

2025年度 1Q

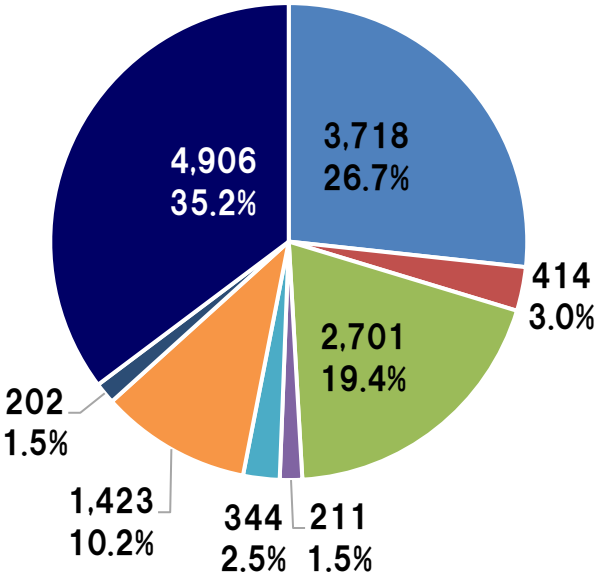
海外売上高比率: 54.8%



計 12,323百万円
海外: 6,754百万円
国内: 5,568百万円

2026年度 1Q

海外売上高比率: 64.8%



計 13,922百万円
海外: 9,016百万円
国内: 4,906百万円

2026年度 想定為替レート

■ 想定為替レート

	2024年度	2025年度		2026年度
	通期実績	上期実績	通期実績	通期想定
USDドル(円)	152.62	146.03	150.67	155
ユーロ(円)	163.87	168.05	174.64	180
元(円)	21.11	20.29	21.22	22

2026年度為替感応度 (百万円)

	売上高	営業利益
USDドル	+97	+14
ユーロ	+15	+8
元	+50	+6

※1円円安(元は0.1円)変動時の影響

2026年度業績予想

(百万円)	2025年度	2026年度				
	通期実績	1Q 実績	予想			
			上期	下期	通期	前期比
受注高	72,596	22,811	35,800	34,200	70,000	△3.6%
売上高	70,034	13,922	33,800	39,200	73,000	+4.2%
売上原価	45,739	9,187	21,650	24,950	46,600	+1.9%
原価率	65.3%	66.0%	64.1%	63.6%	63.8%	△1.5pt
売上総利益	24,295	4,735	12,150	14,250	26,400	+8.7%
利益率	34.7%	34.0%	35.9%	36.4%	36.2%	+1.5pt
販管費	17,210	4,353	9,000	9,400	18,400	+6.9%
販管费率	24.6%	31.3%	26.6%	24.0%	25.2%	+0.6pt
営業利益	7,084	382	3,150	4,850	8,000	+12.9%
利益率	10.1%	2.7%	9.3%	12.4%	11.0%	+0.9pt
経常利益	7,473	527	3,250	4,850	8,100	+8.4%
利益率	10.7%	3.8%	9.6%	12.4%	11.1%	+0.4pt
親会社株主に帰属する当期純利益	5,879	155	2,300	3,580	5,880	+0.0%
利益率	8.4%	1.1%	6.8%	9.1%	8.1%	△0.3pt
1株当たり当期純利益(円)	270.39	7.32	108.93	170.02	278.95	+3.2%
ROE	10.0%	—	—	—	10.0%	±0pt

2026年度 セグメント別の業績予想

(百万円)		2025年度	2026年度				
		通期実績	1Q実績	予想			
				上期	下期	通期	前年同期比
装置事業	受注高	62,216	20,341	30,700	28,750	59,450	△4.4%
	売上高	59,468	11,963	29,350	33,200	62,550	+5.2%
	営業利益	6,606	480	3,010	4,060	7,070	+7.0%
	利益率	11.1%	4.0%	10.3%	12.2%	11.3%	+0.2pt
サービス事業	受注高	8,294	2,077	4,500	4,700	9,200	+10.9%
	売上高	8,327	1,763	4,070	5,080	9,150	+9.9%
	営業利益	228	△74	190	650	840	+268.0%
	利益率	2.7%	△4.2%	4.7%	12.8%	9.2%	+6.5pt
その他事業	受注高	2,529	531	850	1,050	1,900	△24.9%
	売上高	2,747	330	630	1,220	1,850	△32.7%
	営業利益	239	△20	△50	140	90	△62.4%
	利益率	8.7%	△6.2%	△7.9%	11.5%	4.9%	△3.8pt
連結消去	受注高	△442	△139	△250	△300	△550	—
	売上高	△507	△134	△250	△300	△550	—
	営業利益	10	△3	0	0	0	—
計	受注高	72,596	22,811	35,800	34,200	70,000	△3.6%
	売上高	70,034	13,922	33,800	39,200	73,000	+4.2%
	営業利益	7,084	382	3,150	4,850	8,000	+12.9%
	利益率	10.1%	2.7%	9.3%	12.4%	11.0%	+0.9pt

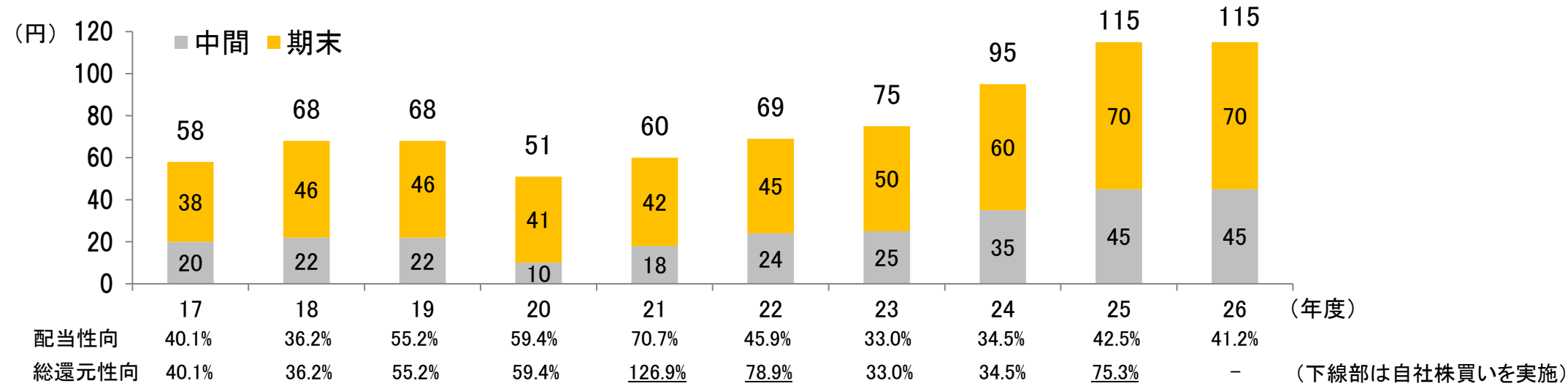
株主還元方針と2026年度配当予想

株主還元方針

配当性向を40%以上とし自己株式取得を機動的に実施
中期経営計画「PROGRESSIVE PLUS 2027」(2025～2027年度)の期間は、3年間累計で総還元性向を50%以上とし減配しない

一株当たり配当金と配当性向・総還元性向

2026年度は年間115円、配当性向41.2%を予想。2026年8月6日、自社株買いを発表(2026年8月7日～2027年7月31日、上限130万株:発行済株式総数6.07%、上限60億円を予定) ※2026年度の配当性向には本自社株買いによる影響を考慮しておりません
(予想)



自己株式の消却に関する基本方針

自己株式の保有上限は発行済株式総数の10%程度とし、保有上限を超過した場合は原則として超過相当分を消却する

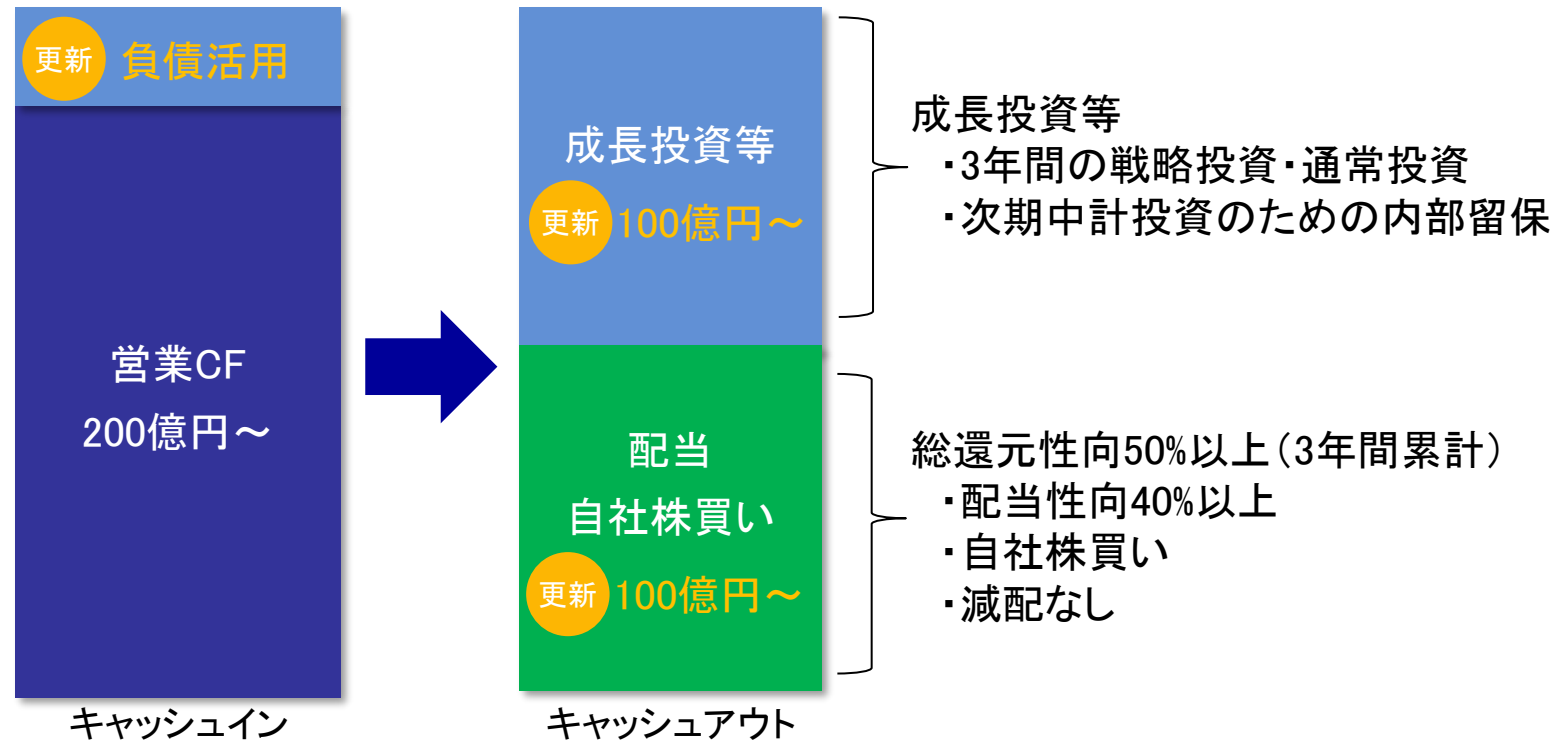
キャッシュ・アロケーション(2025～2027年度)

キャッシュ・アロケーション方針

3年間で創出したキャッシュを成長投資と株主還元積極的に配分する

※2026年5月更新

資本効率を重視し、成長投資や企業価値向上に向けて必要に応じて負債を活用する
株主還元として自社株買いについても機動的に判断し、実施する



2026年度 事業の主な取り組み

装置事業

- ・ターゲット市場における新規ニーズの探索と事業機会の獲得
- ・試験要求に適合した高付加価値製品の開発、市場投入
- ・カスタマイズ容易性向上による製品リードタイム短縮

グローバル戦略

- 日本 : AI半導体、衛星通信分野の営業活動強化、買い替え需要の獲得
- 北米 : 衛星通信分野の販売強化、生産能力増強による収益拡大
- 中国 : 半導体、電子部品・電子機器分野への販売強化

サービス事業

- アフターサービス : 保守契約サービスの拡販、稼働率改善による原価低減
- 受託試験 : 半導体、航空機器関連の受注獲得、収益改善

2026年度 ESGの主な取り組み

■E(環境)

- ・第8次環境中期計画 Plus II (2026～2027年度)の推進
地球温暖化対策の強化、生物多様性保全の推進、資源循環の推進と化学物質管理の強化、
開示情報の充実(CDP、TCFD、TNFD)

■S(社会)

- ・ビジョン実現型人事制度の定着、インターナルコミュニケーションの推進
- ・ワークシェア制度の導入、健康経営の推進
- ・経営補佐職層向け株式報酬制度の運用開始

■G(ガバナンス)

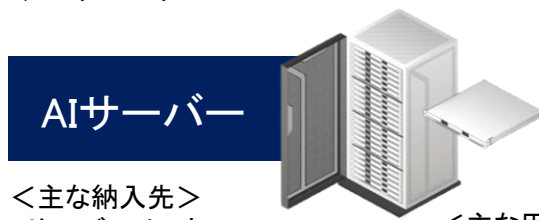
- ・グループガバナンスの強化
- ・サプライチェーンリスク対策
- ・リスクマネジメントの強化

<AI半導体市場／データセンター> サーバー、半導体、電子部品、電子材料

生成AIが社会全体に広まるなか、AIサーバーやサーバーを構成する半導体、ストレージ、電子部品、電子材料の信頼性評価を目的に環境試験の需要が高まっています。



データセンター



AIサーバー

<主な納入先>
・サーバーメーカー
・ハイパフォーマンス
コンピューティング (HPC)メーカー

<主な用途>
耐久性(耐環境)評価
信頼性評価



AIサーバー向け
高発熱負荷対応恒温恒湿室

半導体、ストレージ GPU・メモリ・ロジック

<主な納入先>
・半導体メーカー
・ファウンドリー



<主な用途>
加速寿命試験
スクリーニング(検査)

電子部品

コンデンサ・半導体基板・電源

<主な納入先>
・電子部品メーカー
・半導体基板メーカー



<主な用途>
電気的特性評価(導通等)
動作試験

電子材料

基板材料・絶縁材料

<主な納入先>
・材料メーカー
(基材、レジスト材、モールド材等)



<主な用途>
材料特性評価(吸湿等)
保存試験



急速温度変化チャンバー



高度加速寿命評価装置
(HAST CHAMBER)



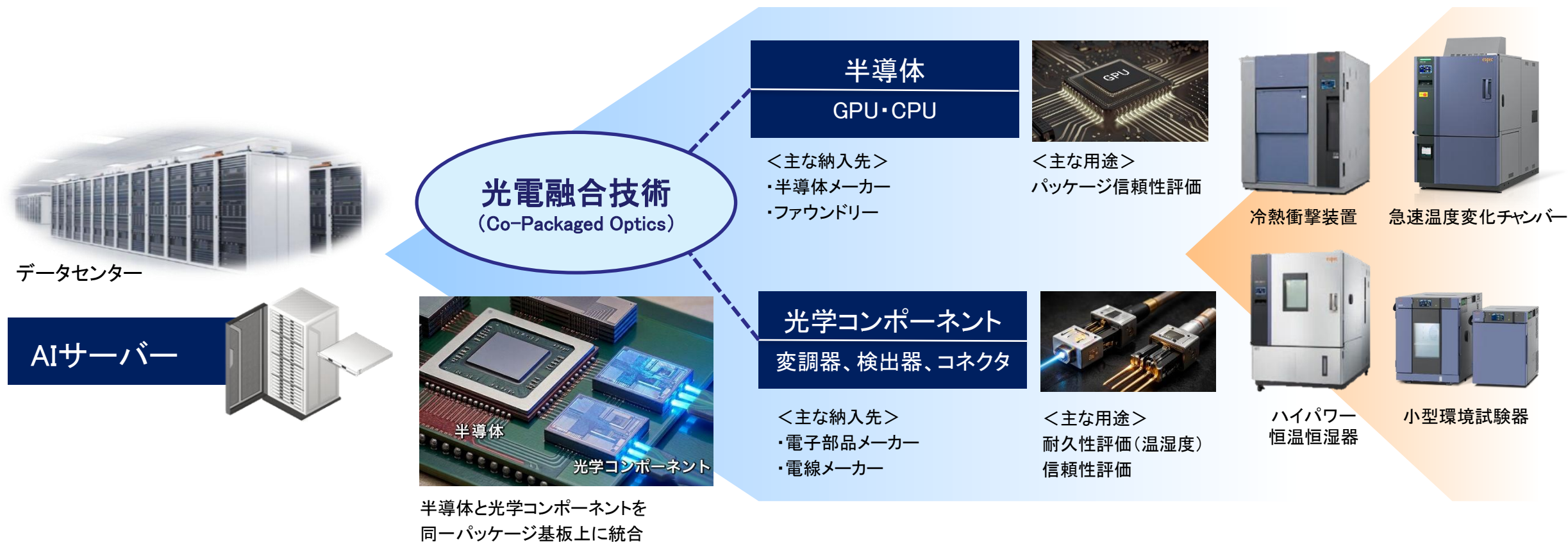
計測評価システム



バーンインチャンバー

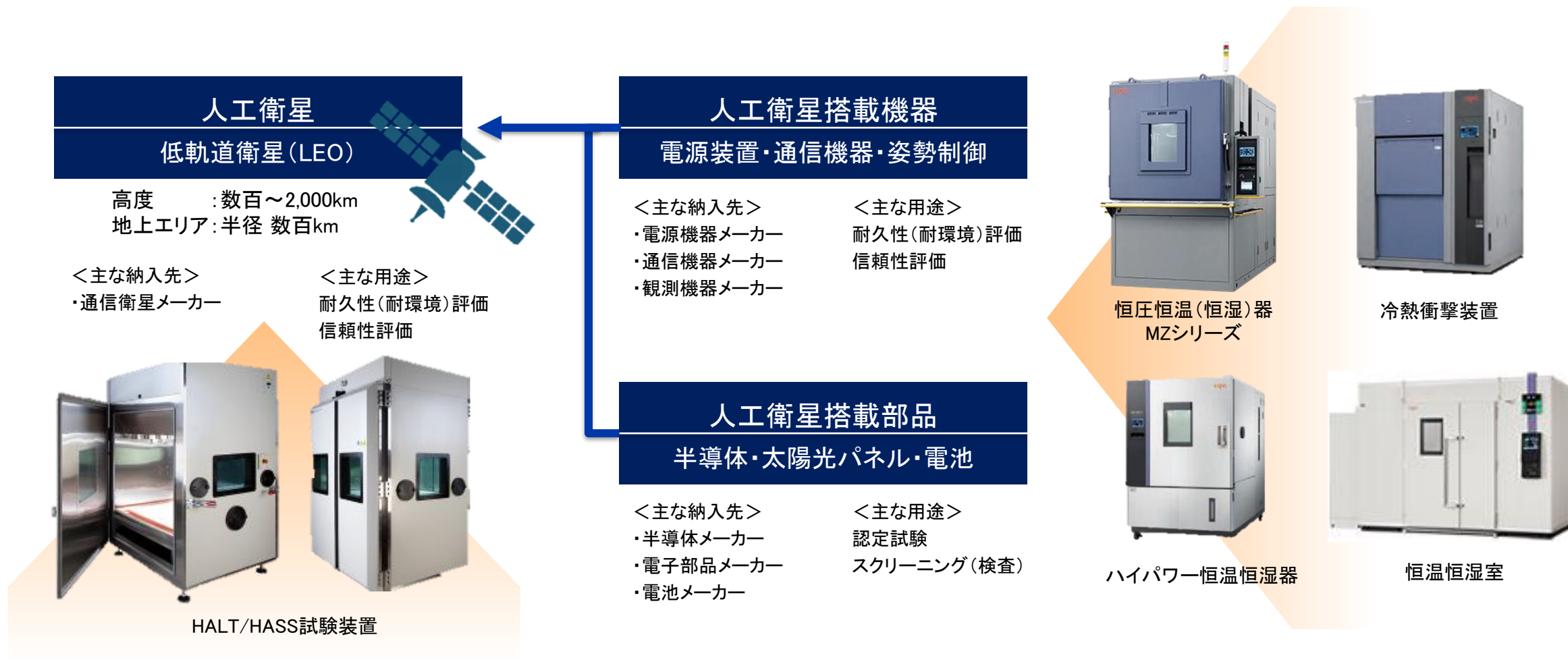
<AI半導体市場／データセンター> 光電融合技術(CPO: Co-Packaged Optics)

光電融合技術は半導体と光通信の光学コンポーネントを同一パッケージ基板上に統合する技術です。サーバーの消費電力削減や通信速度向上に有効な技術として注目されており、光学コンポーネントや実装技術の開発、信頼性評価を目的に環境試験の需要が高まっています。



<衛星通信市場> 人工衛星(低軌道衛星)、人工衛星搭載機器・部品

民間企業の商用衛星通信技術の分野において、低軌道衛星(LEO)や人工衛星に搭載される通信機器や半導体、電子部品の信頼性評価を目的に環境試験の需要が高まっています。



AI半導体市場向け新製品

■ 低電流導体信頼性評価システム「AMR-SPM」

- ・2026年7月、低電流で微小抵抗変動を捉える
低電流導体信頼性評価システム「AMR-SPM」を発売
- ・先端パッケージ開発におけるマイクロビアやインターポザーなどの微細配線・接合部の信頼性評価を支援



低電流導体信頼性評価システム AMR-SPM

■ 低電圧絶縁信頼性評価システム「AMI-SPM」

- ・2026年7月、低電圧領域の絶縁劣化をより高精度に捉える
低電圧絶縁信頼性評価システム「AMI-SPM」を発売
- ・先端パッケージに採用される10V以下の低電圧印加と、
低電圧領域で発生する絶縁劣化に対応



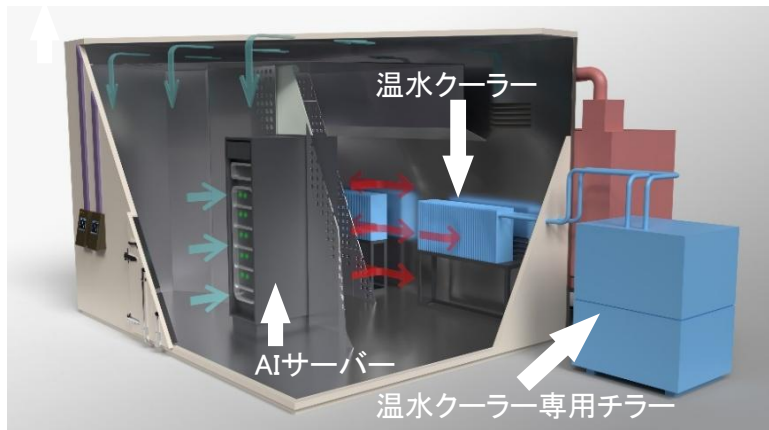
低電圧絶縁信頼性評価システム AMI-SPM

AIサーバー市場向け新製品

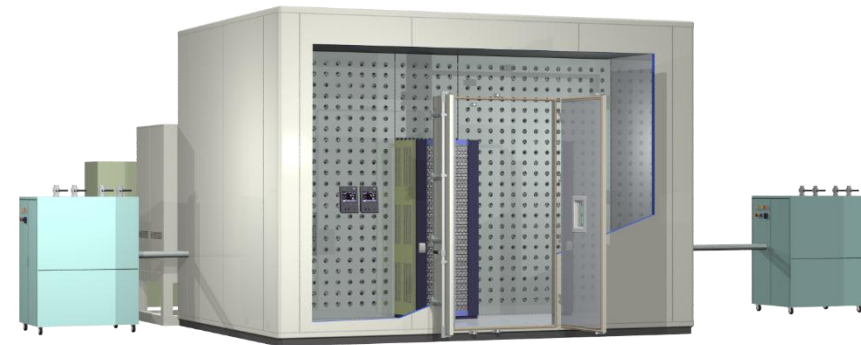
■高発熱負荷対応 恒温恒湿室ウォークインチャンバー

- ・2025年12月、AIサーバーの信頼性評価用として、高発熱負荷に対応した2機種を発売
- ・サーバーによる発熱負荷(30kW、60kW)に対し、独自の制御システムにより精密な温湿度制御を実現
- ・サーバーの信頼性評価に適用される試験規格ASHRAEに適合した試験が可能

＜AIサーバーの試験イメージ＞



新たに開発した空調システムにより、省エネ・省スペース化を実現



高発熱負荷対応
恒温恒湿室ウォークインチャンバー

生物多様性保全活動の拠点 神戸R&Dセンター 「令和8年緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰」を受賞

- ・2026年4月、神戸R&Dセンターが「令和8年緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰」を受賞
- ・社員が約3万本の在来種を植樹し育てた森や、六甲北部の在来種を用いた技術開発棟の屋上緑地、2つの池と小川からなるビオトープを設置
- ・2023年10月には、環境省「自然共生サイト」に認定され、OECM※として国際データベースに登録



※OECM (Other Effective area based Conservation Measures): 保護地域以外で生物多様性保全に資する地域

社外からの評価

■ ESG関連の評価

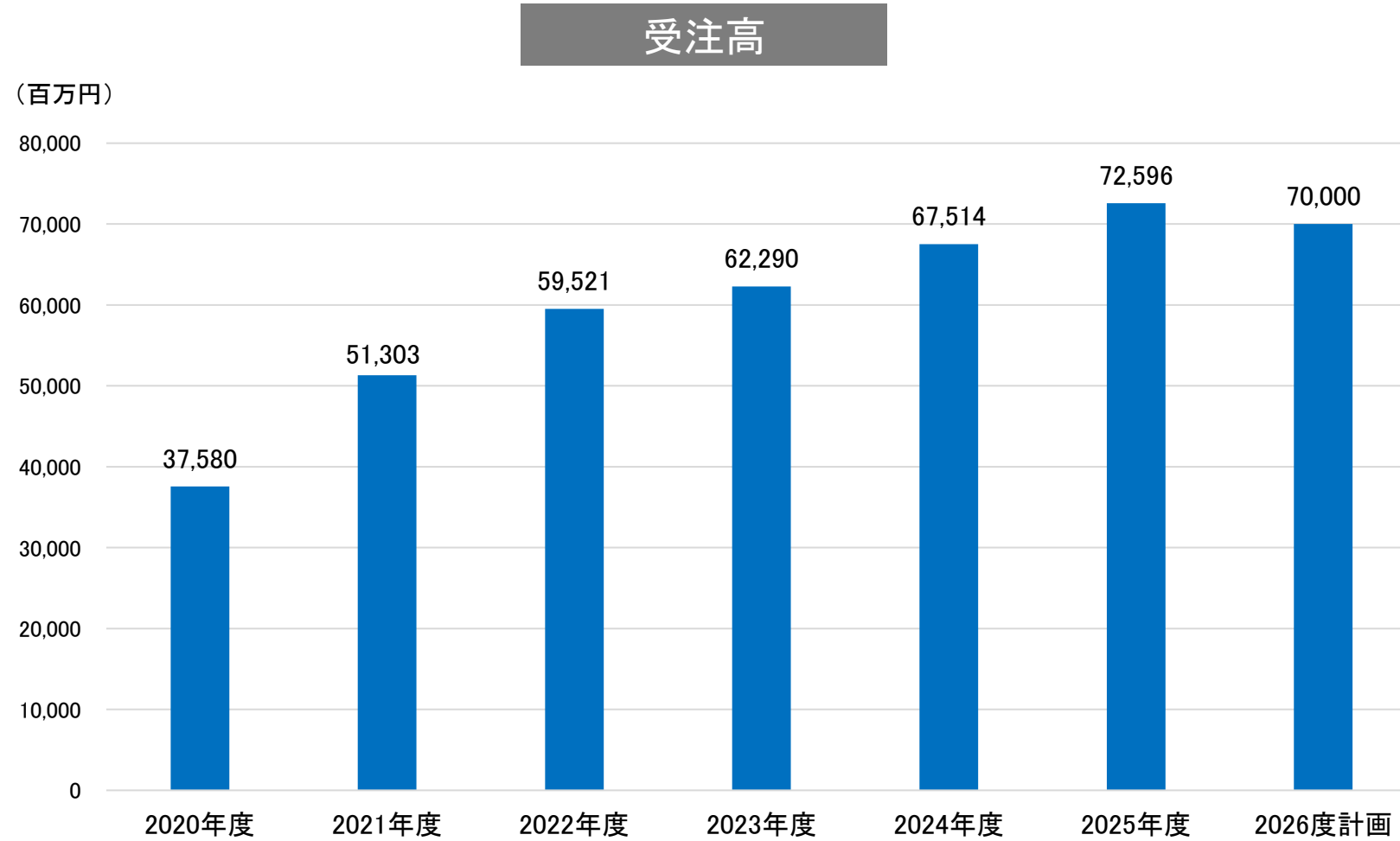
- ・ESG指数「FTSE JPX Blossom Japan Sector Relative Index」組み入れ
ESG指数「S&P/JPXカーボン・エフィシエント指数」組み入れ
- ・CDP 気候変動分野の調査で6年連続「Bスコア」、水セキュリティは2年連続「B-スコア」
「サプライヤーエンゲージメント評価」では、4年連続最高評価の
「サプライヤー・エンゲージメント・リーダー」に選定
- ・日本経済新聞社「日経サステナブル総合調査 SDGs経営編」3.5星
- ・日本経済新聞社「日経サステナブル総合調査 スマートワーク経営編」3つ星
- ・神戸R&Dセンターが「令和8年緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰」受賞
- ・厚生労働大臣より「子育てサポート企業」として「プラチナくるみん」取得
- ・大阪市「女性活躍リーディングカンパニー」認証にて
「三つ星認証」「イクメン推進企業認証」取得

■ IRサイトの評価

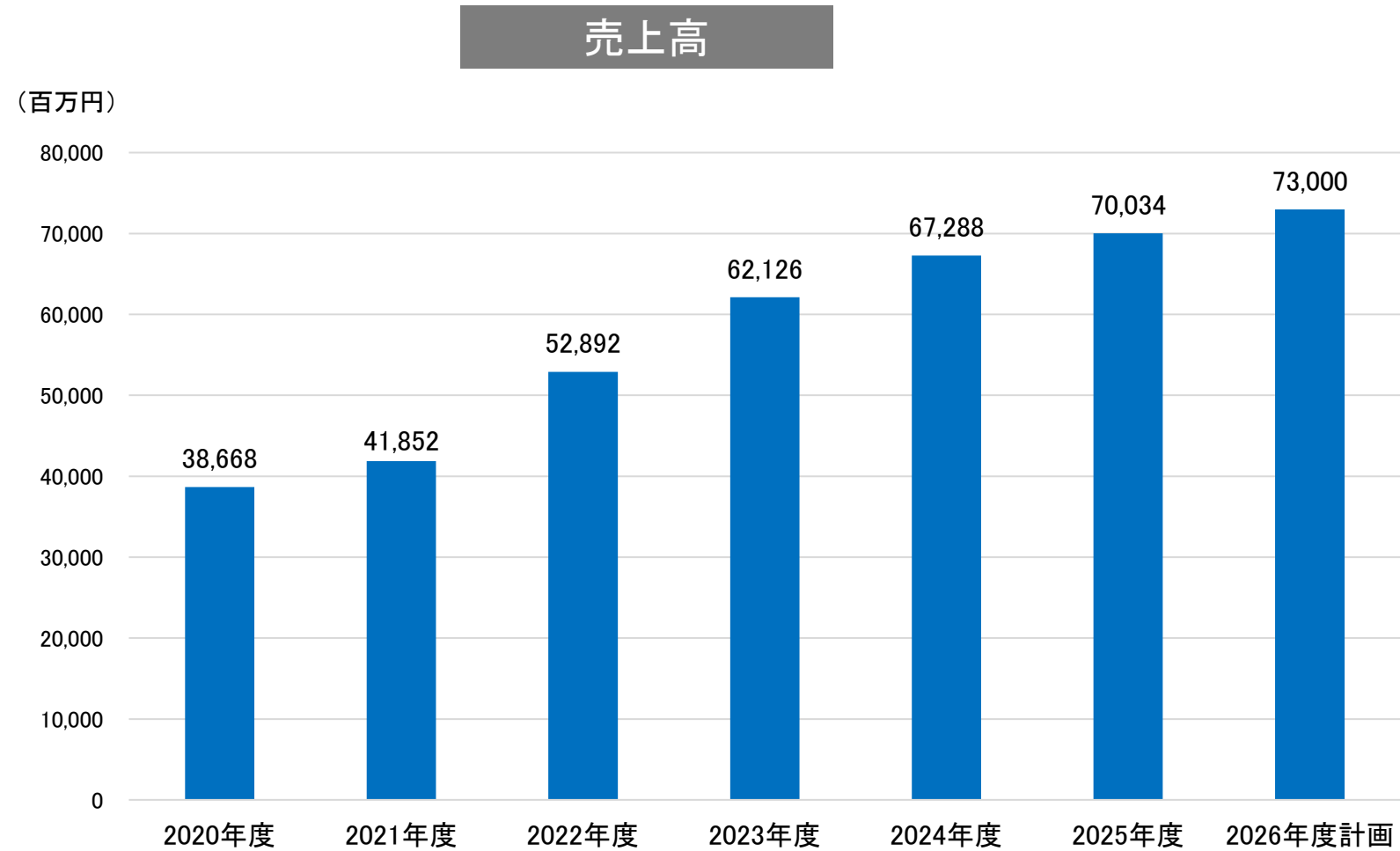
- ・「Gomez IRサイトランキング」銀賞（業種別5位）
- ・「大和インターネット IR表彰」優良賞
- ・日興アイ・アール「全上場企業ホームページ充実度ランキング」最優秀サイト



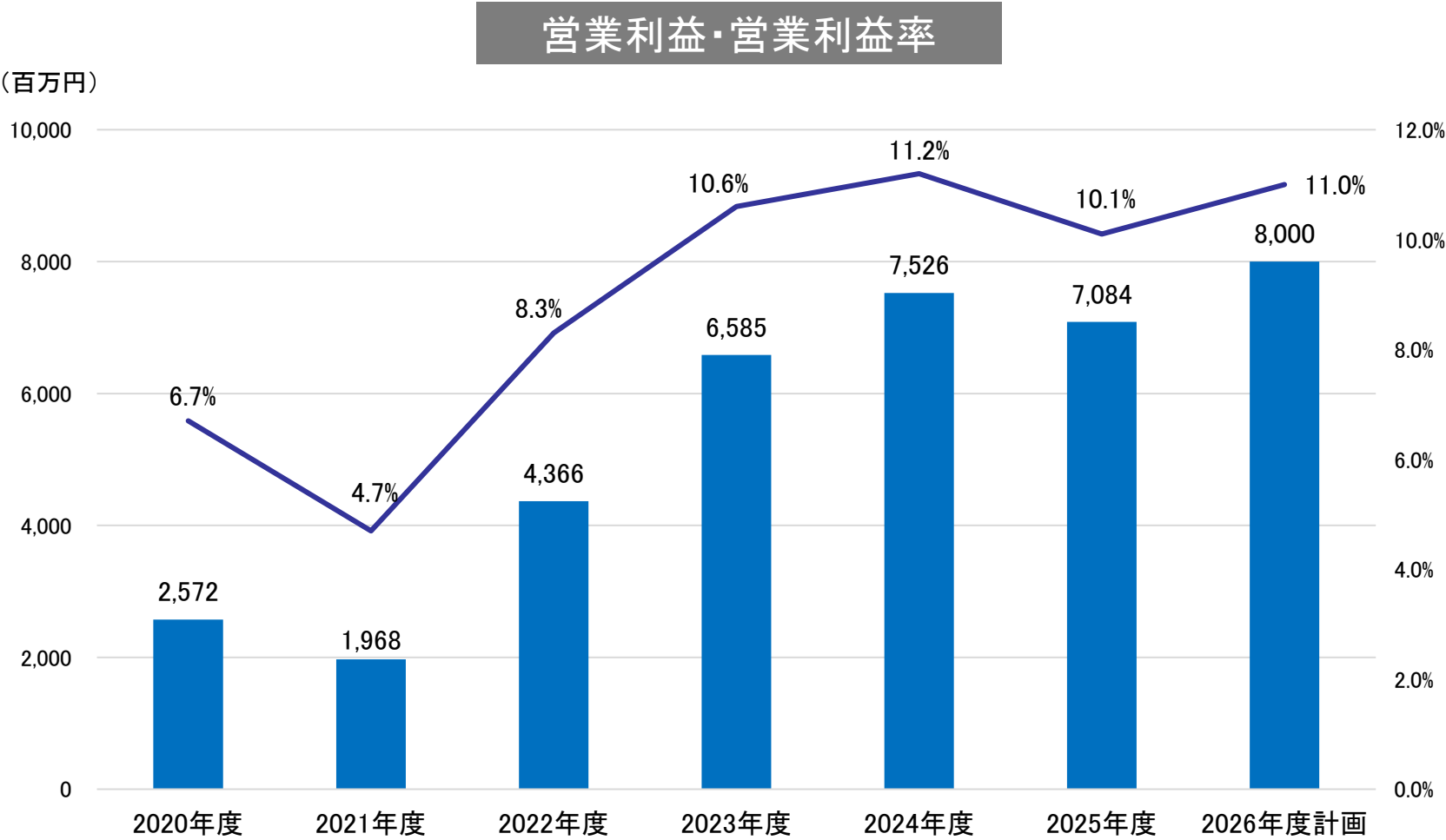
受注高推移



売上高推移



営業利益・営業利益率推移



証券コード6859

参考資料

会社紹介・事業概要

2026年8月21日
エスペック株式会社

会社概要

[環境試験器の世界トップメーカー]

会 社 名	エスペック 株式会社
本社住所	大阪市 北区 天神橋 3-5-6
代表者	代表取締役社長 荒田 知（あらた さとし）
創業年月日	1947年(昭和22年)7月25日
設立年月日	1954年(昭和29年)1月13日
資 本 金	6,895百万円
発行済株式総数	23,781,394株
従業員数	1,898名(連結)
事業内容	環境試験器、エナジーデバイス装置、半導体関連装置、 植物工場の製造・販売、アフターサービス、受託試験など

環境試験器シェア

世界30%以上 国内60%以上 ※シェアは当社推定



本社

(2026年3月31日現在)

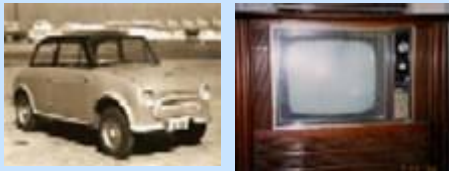
環境試験の沿革

環境試験とは

電子部品などのさまざまな工業製品について、温度、湿度、圧力、振動などの環境因子による影響を分析・評価し、製品の品質を確保するための試験

＜1950年代＞

日本で民生品の環境試験が
JIS規格化



＜1970年代～1990年代＞

「信頼性」「品質管理」が製品開発の重要なテーマとなり、
電子化・電装化の加速に伴い需要が飛躍的に拡大



＜現在＞

デジタル化、脱炭素化を背景にAI・IoTや
次世代自動車の開発分野での需要が拡大



1961年 日本初の環境試験器を開発



低温恒温恒湿器 ルシファー



世界シェア No.1

国内シェア
60%以上

世界シェア
30%以上

※シェアは当社推定

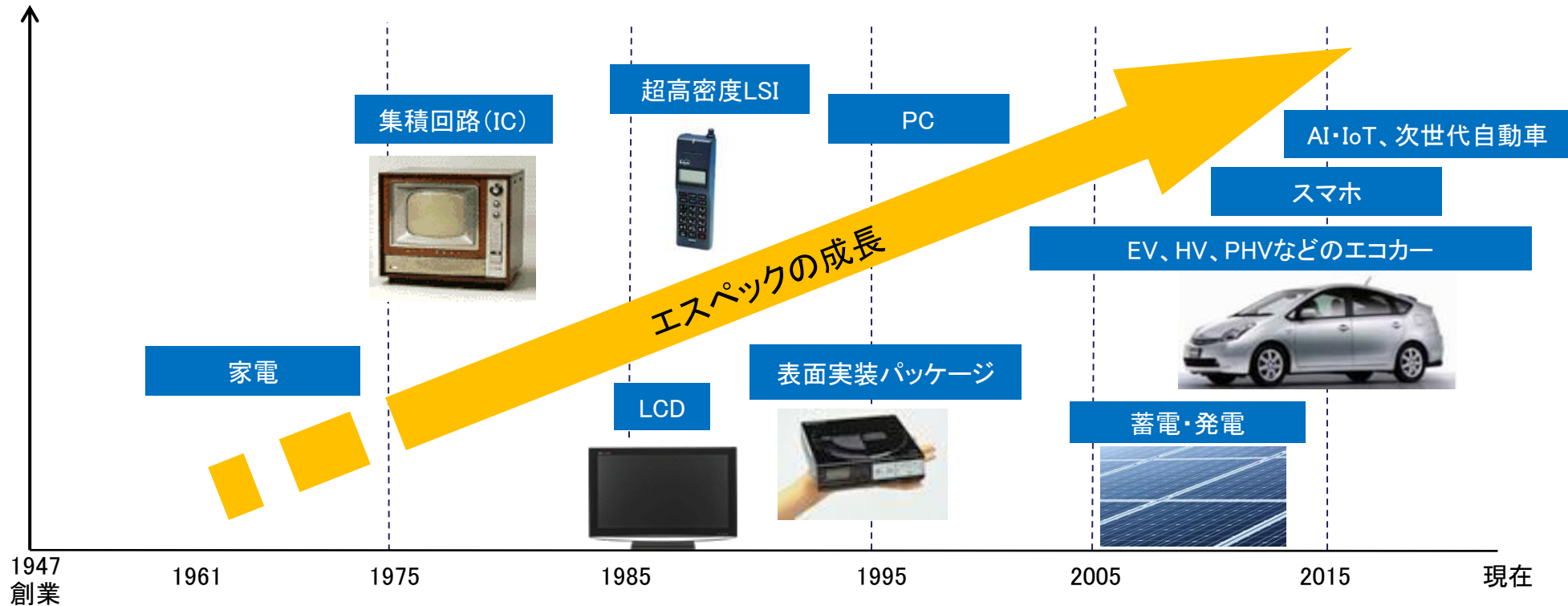
経産省「グローバルニッチトップ企業100選」を連続受賞
(2013年度、2020年度)



恒温恒湿器 プラチナスJシリーズ

事業の変遷

環境試験器で培った「環境創造技術」を軸に事業を拡大



事業の拡大

1961年
環境試験器開発



1982年
半導体試験装置
事業参入



1986年
FPD装置事業参入



1994年
計測システム事業
参入



2011年
電池専用装置事業
参入



2015年
バッテリー安全
認証ビジネス開始



事業概要(各事業の市場／用途)

		主要製品		市場	用途	売上構成比 2025年度
装置事業	環境試験器	・恒温恒湿器 ・冷熱衝撃装置 ・小型環境試験器 ・HASTチャンバー		・恒温恒湿室 ・複合環境試験機 ・HALT試験装置	・電子部品、電子機器 ・自動車 ・半導体 ・衛星通信 ・医薬品、食品等	・R&D 7割 ・信頼性評価 2割 ・生産、検査 1割
	エナジーデバイス 装置	・二次電池充放電サイクル評価装置 ・二次電池安全性評価装置 ・燃料電池評価装置			・次世代自動車 ・二次電池 ・燃料電池	・R&D ・信頼性評価 ・安全性評価 ・生産
	半導体関連装置	・バーンイン装置 ・計測システム			・半導体 ・電子部品 ・自動車	・R&D ・信頼性評価 ・生産、検査
サービス事業	アフターサービス エンジニアリング	・修理・予防保全 ・点検・校正		・機器周辺工事	・電子部品、電子機器 ・自動車 ・半導体 ・航空機器	—
	受託試験 レンタル	・受託試験 ・リセール		・機器レンタル ・校正		・R&D ・信頼性評価
その他事業	環境保全	森づくり、水辺づくり、都市緑化				4%
	植物育成装置	植物工場、研究用育苗装置など				

事業概要: 装置事業

先端技術の発展を支える環境試験の総合ソリューションを提供

※シェアは当社推定

環境試験器

国内シェア60%以上 世界シェア30%以上※

電子部品、電子機器、自動車、半導体、衛星通信、医薬品、食品など幅広い分野において、先端技術開発・信頼性評価・生産・検査工程を支える製品を提供

温度、湿度、圧力の範囲や、温度変化速度、大きさなどに応じて、多彩なラインアップをそろえている



恒温恒湿器 プラチナスJシリーズ



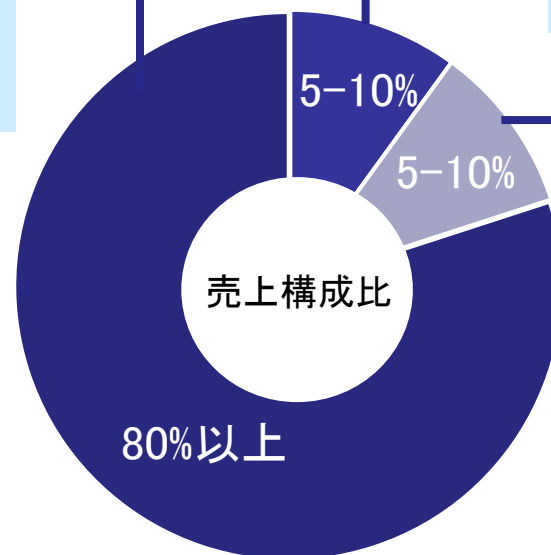
冷熱衝撃装置



恒温(恒湿)室 ウォークインチャンバー



小型環境試験器



半導体関連装置

半導体検査工程において良品・不良品を選別するバーンイン装置、半導体・電子部品などの電気的特性を評価する計測システムを提供



計測評価システム



バーンインチャンバー

エネルギーデバイス装置

二次電池の性能や寿命の評価を行う二次電池充放電サイクル評価装置、安全性評価装置や、燃料電池評価装置を提供



二次電池充放電評価システム



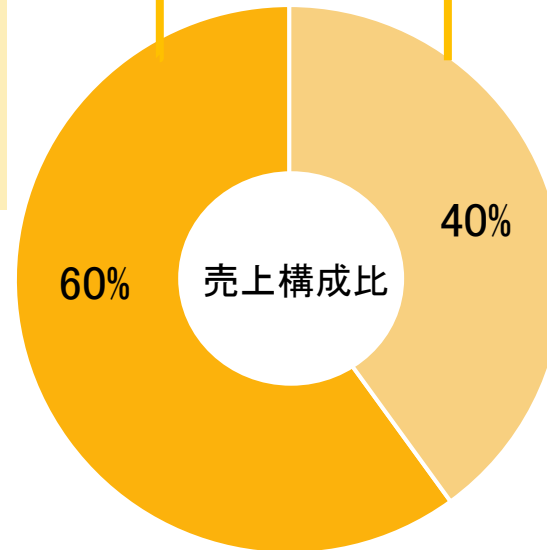
充放電専用恒温槽

事業概要：サービス事業

お客さまのお困りごとを解決するサービスを提供、
各種規格に応じたお客さまの試験をトータルにサポート

アフターサービス・エンジニアリング

- ・お客さまが安心して装置をお使いいただけるよう製品のメンテナンスや予防保全を実施
- ・設置・移設、周辺工事、周辺機器の販売を行う
- ・クラウドを活用したネットワークサービスを提供



受託試験・レンタル

- ・各業界特有の評価ニーズに最適なソリューションを提案し、当社試験所にて顧客の環境試験を代行
- ・環境試験器のレンタル・リセールおよび計測機器の校正サービスを行う

■ 受託試験の試験領域：

- ・自動車
- ・航空・eVTOL（電動垂直離着陸機）
- ・半導体
- ・二次電池
- ・電子部品、電子機器
- ・等



国内5カ所（宇都宮・常滑・豊田・刈谷・神戸）
中国2カ所（上海・蘇州）、タイ1カ所に試験所を設置

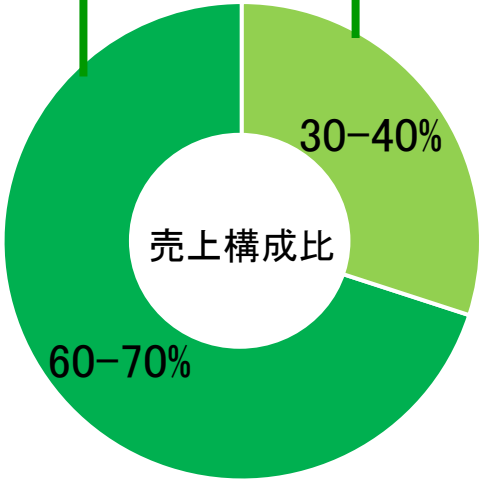


国内の試験所で実施する受託試験は
100%再生可能エネルギーで提供

事業概要：その他事業

植物育成装置

光や温湿度、養分などを管理する植物工場や
研究用育苗装置を提供



環境保全

地域の在来種にこだわった森づくりや水辺づくり



エスペックの強み

トップシェア

- ・シェアは世界30%以上、国内60%以上（当社推定）
- ・国内で初めて環境試験器を開発し早期に国内外でブランドを確立、トップシェアを長年保持

技術力 製品・サービス力

- ・高品質かつ顧客の要望に応じた多種多様な製品を開発
- ・多品種少量生産を可能とする生産技術力
- ・製品はじめ受託試験やテクニカルサポートなど環境試験のトータルソリューション、アフターサービス力

グローバル体制

- ・充実したグローバルネットワークで各国のニーズに適合した製品をグローバルに提供

連結子会社 : 13社（海外9社、国内4社）
海外生産拠点 : 北米1社、中国2社、韓国1社
海外ネットワーク : 50カ所（国・地域）44社

グローバルネットワーク

連結子会社 13社
(海外9社、国内4社)

海外ネットワーク
50カ所(国・地域)44社

国内営業・サービス拠点 16カ所
国内代理店 46社

欧州

●ESPEC EUROPE GmbH
△ESPEC IKLIM KABINLERI
SATIS VE MUHENDISLIK
LIMITED SIRKETI

アジア

●上海愛斯佩克環境設備有限公司 ※
●愛斯佩克環境儀器(上海)有限公司
●愛斯佩克試験儀器(広東)有限公司 ※
●愛斯佩克測試科技(上海)有限公司
●ESPEC(CHINA)LIMITED
●ESPEC KOREA CORP. ※
●ESPEC ENGINEERING (THAILAND) CO., LTD.
△ESPEC ENGINEERING VIETNAM CO., LTD.

日本

エスペック(株) ※
●エスペックアシスト(株)
●エスペックミック(株)
●エスペックサーマルテックシステム(株) ※
●コスモピアハイテック(株) ※

米国

●ESPEC NORTH AMERICA, INC. ※

●印・・・連結子会社
△印・・・非連結子会社

※は生産機能を持つ会社

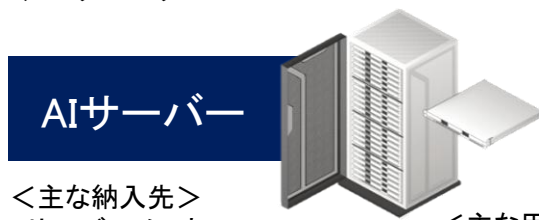
中期経営計画(2025～2027) ターゲット市場

<AI半導体市場／データセンター> サーバー、半導体、電子部品、電子材料

生成AIが社会全体に広まるなか、AIサーバーやサーバーを構成する半導体、ストレージ、電子部品、電子材料の信頼性評価を目的に環境試験の需要が高まっています。



データセンター



AIサーバー

<主な納入先>
・サーバーメーカー
・ハイパフォーマンス
コンピューティング (HPC)メーカー

<主な用途>
耐久性(耐環境)評価
信頼性評価



AIサーバー向け
高発熱負荷対応恒温恒湿室

半導体、ストレージ GPU・メモリ・ロジック

<主な納入先>
・半導体メーカー
・ファウンドリー



<主な用途>
加速寿命試験
スクリーニング(検査)

電子部品

コンデンサ・半導体基板・電源

<主な納入先>
・電子部品メーカー
・半導体基板メーカー

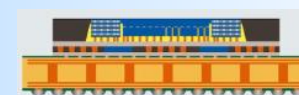


<主な用途>
電気的特性評価(導通等)
動作試験

電子材料

基板材料・絶縁材料

<主な納入先>
・材料メーカー
(基材、レジスト材、モールド材等)



<主な用途>
材料特性評価(吸湿等)
保存試験



急速温度変化チャンバー



高度加速寿命評価装置
(HAST CHAMBER)



計測評価システム

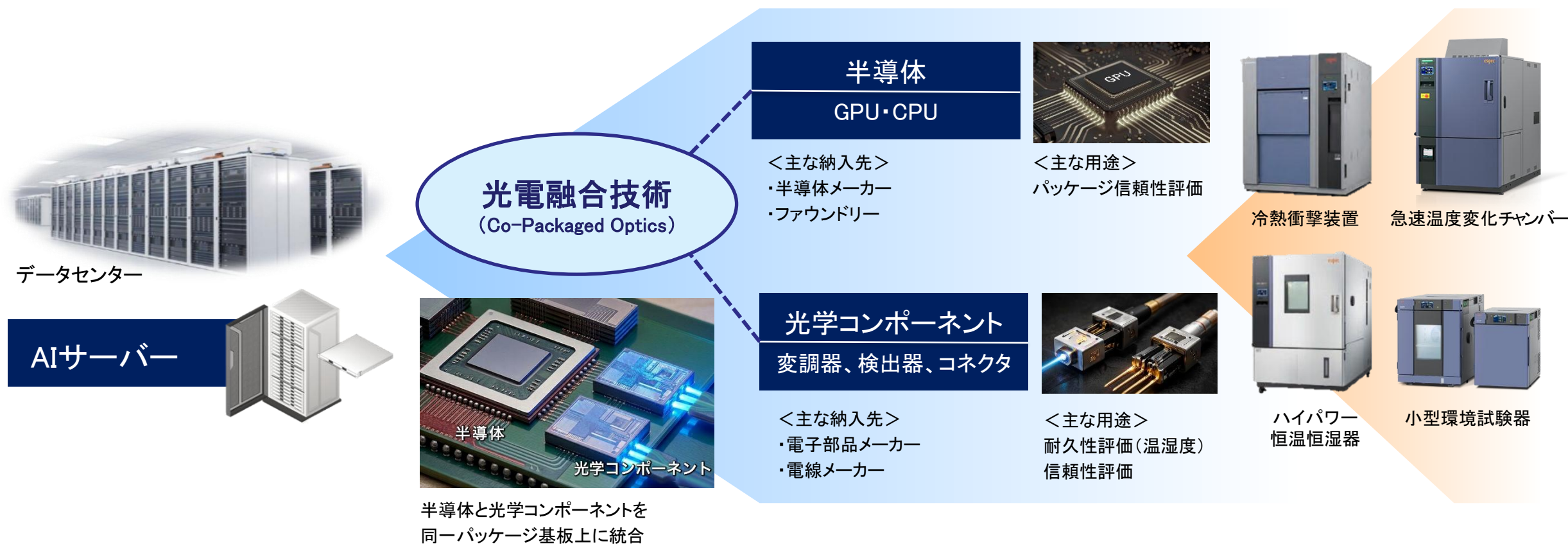


バーンインチャンバー

中期経営計画(2025～2027) ターゲット市場

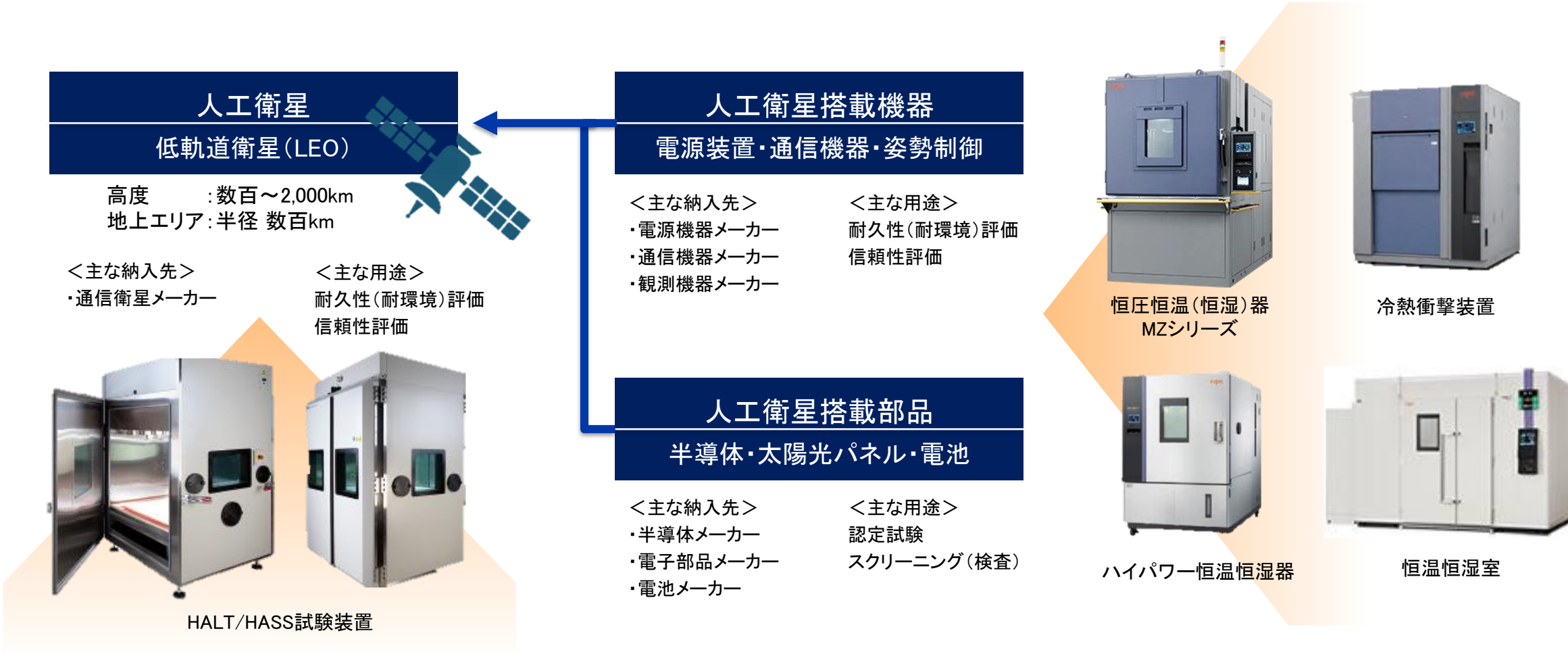
<AI半導体市場／データセンター> 光電融合技術(CPO: Co-Packaged Optics)

光電融合技術は半導体と光通信の光学コンポーネントを同一パッケージ基板上に統合する技術です。サーバーの消費電力削減や通信速度向上に有効な技術として注目されており、光学コンポーネントや実装技術の開発、信頼性評価を目的に環境試験の需要が高まっています。



中期経営計画(2025～2027) ターゲット市場
<衛星通信市場> 人工衛星(低軌道衛星)、人工衛星搭載機器・部品

民間企業の商用衛星通信技術の分野において、低軌道衛星(LEO)や人工衛星に搭載される通信機器や半導体、電子部品の信頼性評価を目的に環境試験の需要が高まっています。



【装置事業/サービス事業】全天候型試験ラボの紹介(神戸R&Dセンター内)

世界初「全天候型試験ラボ」をオープン オープンイノベーションを推進し環境創造技術を強化

(2021年3月)

7つの環境因子(温度・湿度・雪・霧・雨・光・風)を高精度に制御・可変し、動的気象環境(刻々と変化する気象環境)を再現

■ 全天候型試験ラボ



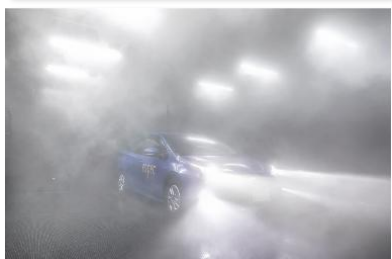
試験室 幅6m×奥行9m×高さ3m
光の乱反射を抑える黒色コーティング

■ 動的気象環境における試験例



① みぞれ→雪への変化を再現する試験

水分量の異なる雪を再現でき、自然環境に近い0℃前後での降雪も可能。雪質と温度を制御し、みぞれから雪への変化を再現。着雪が課題となっている自動運転用センサーの性能を確認できる。



② 雨→霧への変化を再現する試験

霧の濃さと温湿度を制御し、雨から霧への変化も再現。霧の影響を受ける自動運転用センサーの性能を確認できる。

【装置事業】環境試験器の用途事例

電気自動車(EV)イメージ

部品・モジュール・完成品単位で繰り返し試験を実施し、新技術・新製品の信頼性を確保

車載部品・電装品
・ECU
・インバーター
・コンバーター
・センサー
・モーター
など



車載用バッテリー
・リチウムイオン電池
・全固体電池
など

環境試験の代表例

デバイス	プロセス／試験条件		当社製品
【パワーデバイス】 	検査	■ 冷熱衝撃試験 : $-40^{\circ}\text{C} \Leftrightarrow +125^{\circ}\text{C}$	冷熱衝撃装置
		■ 高温放置 : $+175^{\circ}\text{C}$ 、 $+85^{\circ}\text{C}$	(小型)オープン
		■ バーンイン試験	バーンイン装置
【車載センサー】 	検査	■ 基板の温度サイクル試験 : $-40^{\circ}\text{C} \Leftrightarrow +110^{\circ}\text{C}$	低温恒温器(プラチナス)／オープン
	評価	■ はんだ付け後の温度特性試験 : $-30^{\circ}\text{C} \Rightarrow +85^{\circ}\text{C}$ をリニア変化 ■ 冷熱衝撃試験 : $-30^{\circ}\text{C} \Leftrightarrow \text{RT} \Leftrightarrow +80^{\circ}\text{C}$ 、 $-55^{\circ}\text{C} \Leftrightarrow +155^{\circ}\text{C}$	バーンイン装置・急速温度変化チャンバー 冷熱衝撃装置
【CCD／CMOS】 	生産	■ 拡散試験 : $+150^{\circ}\text{C}$	小型オープン
		■ 洗浄後の乾燥 : $+85^{\circ}\text{C}$	クリーンオープン
	評価	■ スクリーニング : $+85^{\circ}\text{C}$	恒温器(プラチナス)／バーンイン装置
	検査	■ 温湿度試験 : $+85^{\circ}\text{C} / +85\%\text{rh}$ 、 $+60^{\circ}\text{C} / 90\%\text{rh}$	恒温恒湿器(プラチナス)
		■ 加速試験 : $+120^{\circ}\text{C} / 100\%\text{rh}$ ■ 冷熱衝撃試験 : $-40^{\circ}\text{C} \Leftrightarrow +125^{\circ}\text{C}$ 、 $-20^{\circ}\text{C} \Leftrightarrow +85^{\circ}\text{C}$	HASTチャンバー 冷熱衝撃装置

【装置事業】主な新製品

発売日	製品名	特長
2026年7月	低電圧絶縁信頼性評価システム「AMI-SPM」	・低電圧領域で発生する絶縁劣化に対応 ・微細化が進む先端パッケージの実使用環境における絶縁信頼性評価を実現
2026年7月	低電流導体信頼性評価システム「AMR-SPM」	・試料に過度な負荷を与えない微小電流を印加 ・先端パッケージの接合部評価で求められる低電流印加と高精度測定を両立
2025年12月	高発熱負荷対応 恒温恒湿室ウォークインチャンバー	・AIサーバーの高発熱負荷に対応 ・サーバーの信頼性評価試験規格ASHRAEに適合
2025年10月	高度加速寿命試験装置(HAST CHAMBER) 大型基板対応モデル	・AI半導体・自動運転分野の試験需要に対応 ・一度の試験で大量の試料を評価可能、試験効率を向上
2025年4月	超低温ショックフリーザー	・超低温-70℃の急速冷凍で生鮮食品の鮮度を保持 ・食品の冷凍、保存、解凍、再加熱までの工程を自動で完結
2025年4月	急速温度変化チャンバー ハイパフォーマンスモデル	・試料温度を20℃/分で勾配制御可能 ・半導体パッケージの信頼性試験規格、エレクトロニクス、自動車市場などの国際規格に適合
2025年1月	受託計測サービスを拡充 (熱変形計測サービス・熱画像解析サービス)	・熱変形計測システム:リフロー炉の温度環境(最大260℃)、大型基板サイズに対応 ・熱画像解析システム:高速・高精度の熱画像解析を実現

【装置事業】新製品紹介①

■ 高度加速寿命試験装置(HAST CHAMBER) EHS-222M-L

- ・2025年10月、高度加速寿命試験装置に、大型基板の試験に対応したモデル(EHS-222M-L)をラインアップ
- ・一度の試験で大量の試料を評価することが可能
- ・電子部品等の開発期間短縮と高信頼性の確保に貢献



高度加速寿命試験装置
EHS-222M-L

■ 急速温度変化チャンバー TCC-151W-20

- ・2025年4月、急速温度変化チャンバーに試料温度を20°C/分で制御可能なハイパフォーマンスモデルをラインアップ
- ・半導体パッケージの信頼性試験規格、エレクトロニクス、自動車市場などの国際規格に適合
- ・低GWP※冷媒「R-449A」を標準搭載



急速温度変化チャンバー
TCC-151W-20

※GWP: 地球温暖化係数。値が小さいほど環境負荷が少ない

【装置事業】新製品紹介②

■ 低GWP冷媒搭載 低温恒温(恒湿)器 プラチナスJシリーズ ECOタイプを発売

- ・2024年11月、環境試験器のグローバルスタンダードモデル「プラチナスJシリーズ」よりECOタイプを発売
- ・独自の冷凍技術により、現行モデルと比較して消費電力を最大70%低減、低GWP※冷媒「R-449A」搭載により温室効果ガス排出量削減に貢献



低温恒温(恒湿)器
プラチナスJシリーズ ECOタイプ

■ 低GWP冷媒搭載 急速温度変化装置を コスモピアハイテックが国内で初めて発売

- ・2024年10月、当社グループのコスモピアハイテックが国内初となる低GWP※冷媒「R-473A」搭載の急速温度変化装置を発売
- ・国際的な試験規格に適合するとともに、温室効果ガス排出量削減に貢献



急速温度変化装置
プレミアムエクセレントシリーズ
(EC-28PXHH)

※GWP: 地球温暖化係数。値が小さいほど環境負荷が少ない

【装置事業】新製品紹介③

■受託計測サービス

半導体パッケージや実装基板等の放熱設計や
熱解析CAEの精度向上に貢献 (2025年1月拡充)

<熱変形計測サービス>

- ・半導体パッケージや実装基板の反り変形を可視化
- ・リフロー炉の温度環境(-40°C ~ $+260^{\circ}\text{C}$)に対応
- ・300mmサイズの大型基板サイズに対応

<熱画像解析サービス>

- ・恒温環境(-40°C ~ $+100^{\circ}\text{C}$)下における供試品の温度分布を可視化



熱変形計測システム

■ -70°C でおいしく急速冷凍

超低温ショックフリーザーを発売

- ・2025年4月、 -70°C の超低温で食品を急速に冷凍し、生鮮食品も鮮度を保ちながら保存できる「超低温ショックフリーザー」を発売
- ・低風速環境下での冷凍を実現することで、食品の乾燥を防ぎながら、保存、解凍、再加熱まで1台で完結



超低温ショックフリーザー

【装置事業】環境試験器の納入事例

■恒温(恒湿)室 建材用試験室の納入 (2018年7月)

<用途>

マンションの屋内(温湿度)と屋外(雨、雪、日射などの気象)の環境を再現し、サッシやバルコニーなどの建材の性能評価や耐久性試験を行う



恒温(恒湿)室 建材用試験室



恒温(恒湿)室は可動式になっており、試験用建材の入れ替えが容易にできます



照射装置と散水(降雨)装置を装備し、屋外の気象環境を再現します

【装置事業】エネルギーデバイス装置の用途事例

充放電サイクル評価装置

ハイブリッド自動車や電気自動車など次世代自動車に用いられるリチウムイオン二次電池の信頼性や安全性を確保するための装置

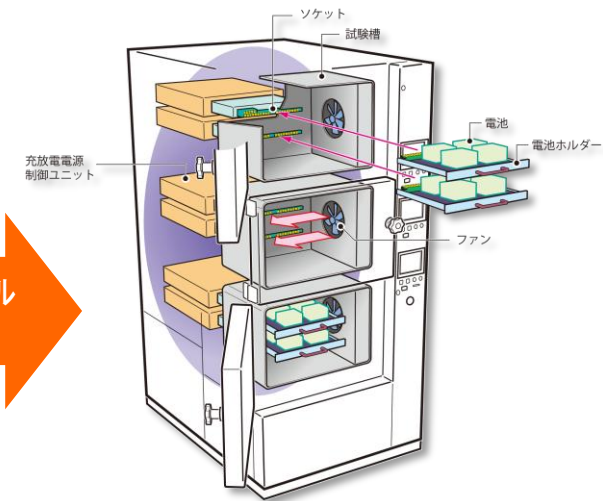


二次電池用充放電評価装置

二次電池



充放電サイクル
負荷



二次電池の充放電特性を確認

＜二次電池の性能や寿命を評価＞

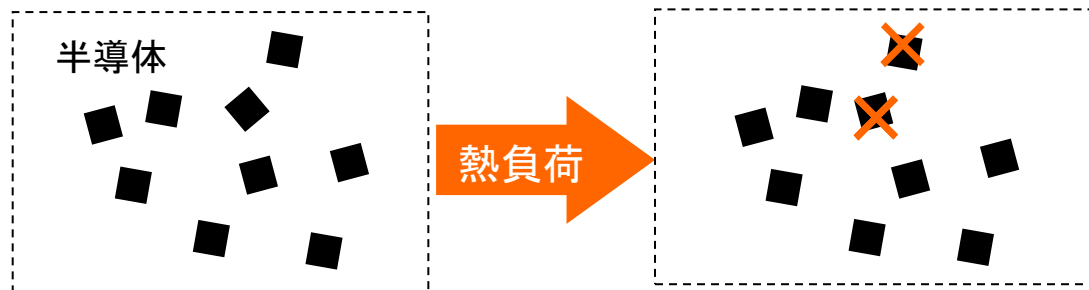
【装置事業】半導体関連装置の用途事例

スクリーニング

半導体デバイス製造の最終検査工程において、不良品を除初期品質を確保



バーンインチャンバー



＜潜在的な初期故障を除去＞

信頼性評価

新しい技術開発において、信頼性確保に向けた基本的な故障形態を評価



導体抵抗評価システム



熱サイクル
負荷

はんだ接合部分の不良例



＜電子部品のはんだ接合部分の信頼性を電氣的に評価＞

【サービス事業】保守契約サービスの特長

装置の安定稼働



年1回サービスエンジニアが装置を確認・診断
摩耗部品を交換し、装置の安定稼働を支援

装置の遠隔監視／異常通報メール



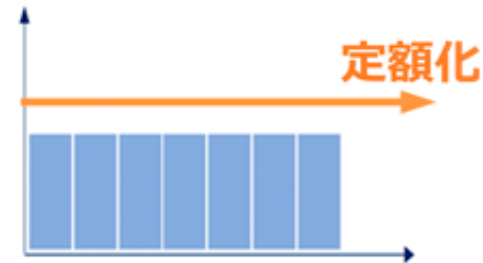
装置の運転状況をPCから確認可能
異常発生時にメールでお知らせ

ダウンタイムの短縮



装置データによる事前診断により
装置の異常をスピーディに解決

保全費用の定額化



緊急の修理費用の発生がなく、保全費用の
定額化が可能。設備管理業務の手間も低減

【サービス事業】受託試験サービス

自動化モジュールなど多岐にわたる 車載用電装品の試験に対応

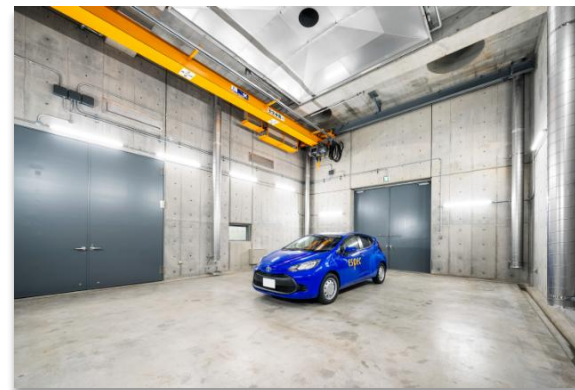
- ・2019年9月、豊田試験所にて、ドイツ自動車業界規格LV124の全試験項目に対応
- ・2025年4月、機能を拡張し、EV・自動化モジュールの動作状態での使用環境を再現し、評価・計測するサービスを新たに強化



豊田試験所(愛知県豊田市)

国内最大級 車載バッテリー専門試験所 「あいちバッテリー安全認証センター」

- ・2025年2月、あいち次世代モビリティ・テストラボ常滑サイトに開設
- ・最新の試験設備により、車載用バッテリーの大型化、高容量化に対応



自動車が1台入る安全試験室

【その他事業】環境保全・植物育成装置

2025大阪・関西万博にて 会場の緑化およびアクアポニックス展示に協力

■会場に植物を植栽したマットや苗を提供

- ・「大屋根リング」には日本の在来種であるチガヤを植栽したマットやススキの苗を、「静けさの森」には野草や池の水際を縁取る水生植物を提供
- ・EXPOナショナルデーホールやハンガリー館、クウェート館、シグネチャーパビリオン等にも提供



大屋根リング

■「大阪ヘルスケアパビリオン」展示に協力

- ・大阪公立大学植物工場研究センターと連携し、アクアポニックスの展示に協力
- ・野菜栽培技術やノウハウを提供

アクアポニックスとは：水耕栽培と陸上養殖を掛け合わせた循環型生産システム。魚類の糞尿を微生物に分解させ、野菜の生育に必要な栄養源として活用。化学肥料を使用しない、または低減した野菜生産が可能。



アクアポニックス「いのちの湧水(いずみ)」

【その他事業】植物育成装置の納入事例

■鳥取大学乾燥地研究センター

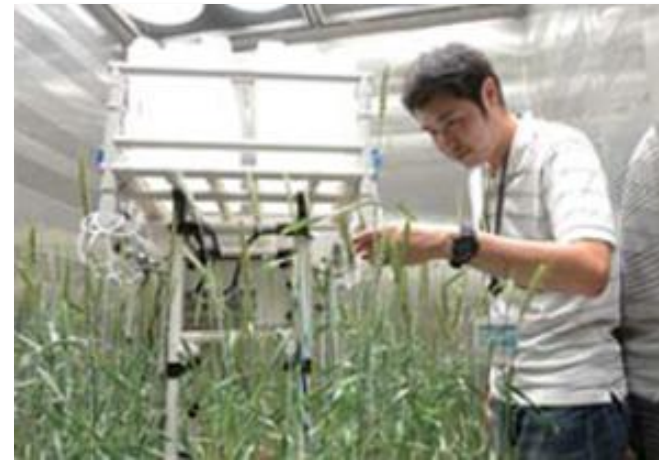
(2016年3月納入)

納入製品： 乾燥地植物気候変動応答実験設備 2基
(高温、低湿、強光、強風など乾燥地の気候を再現)

用 途： 乾燥地での植物の栽培実験や効率的な水利用技術の開発実験など
乾燥地問題の解決に向けた研究



乾燥地植物気候変動応答実験設備



実験の様子
(小麦の乾燥ストレスを実験)

証券コード6859

参考資料

サステナビリティの取り組み

2026年8月21日
エスペック株式会社

当社は企業理念「THE ESPEC MIND」のもと
環境創造技術をかなめとした事業で社会や環境の
課題解決に貢献し、持続的な成長を目指しています。

創業当時から伝わるエスペックの大切な価値観

企業理念「THE ESPEC MIND」(抜粋)

起 点

社会の公器として、
すべてのステークホルダーとより良い価値交換を目指す

使 命

環境創造技術でより確かな生環境を提供

スタイル

プログレッシブ(進取的な)、リライアブル、オープン、フェア

宣 言

社会に約束すること「遵法」「文化」「人権」「環境」「啓発」

サステナビリティ方針とマテリアリティ

持続的成長に向けて、サステナビリティ方針を策定し、「社会的価値」「経済的価値」を創出していくために取り組むべきマテリアリティ(重要課題)を特定

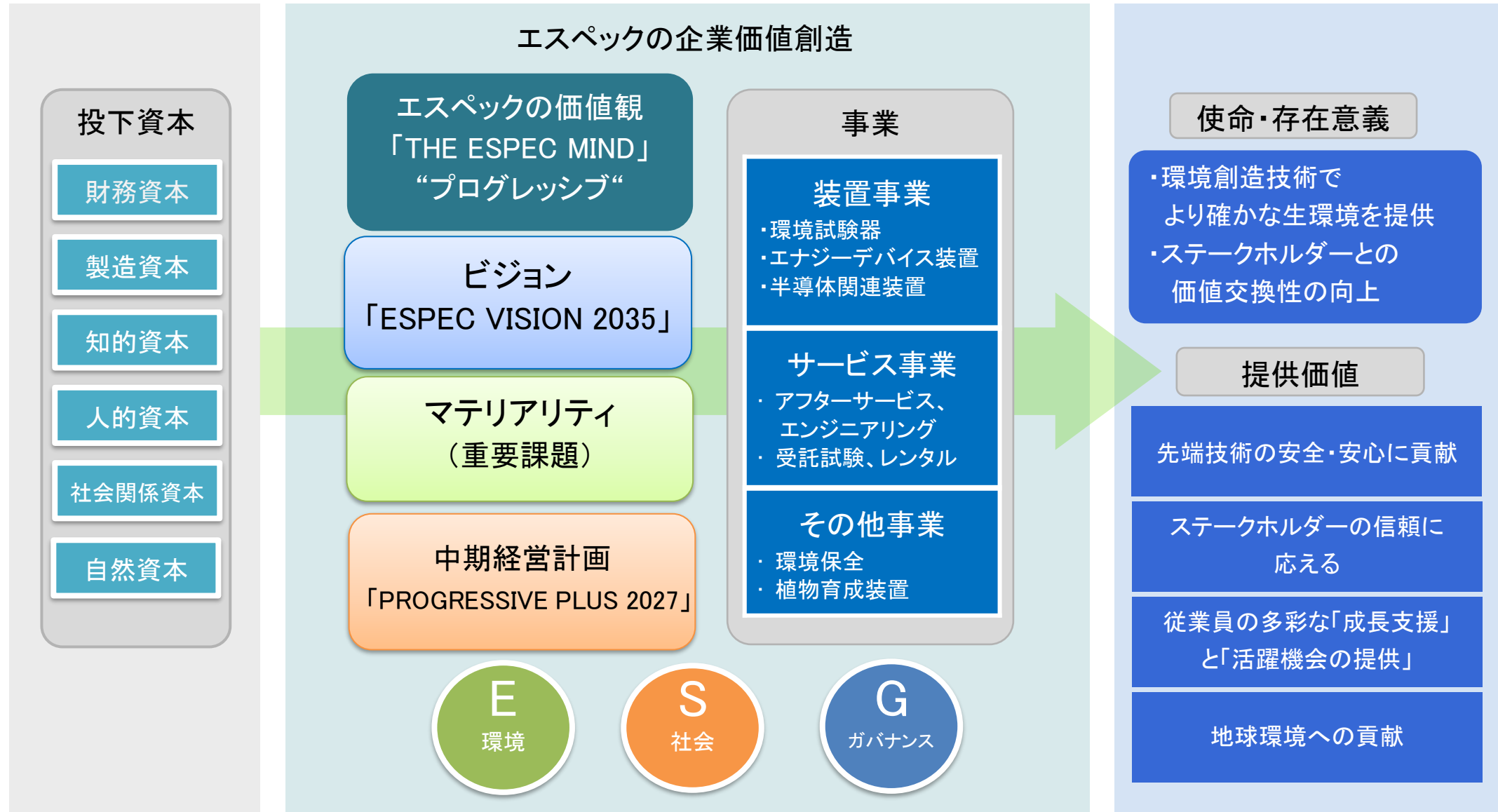
サステナビリティ方針

- 企業理念「THE ESPEC MIND」の実践により、「社会的価値」と「経済的価値」の創出と向上を図ります
- ステークホルダーとのより良い価値交換により持続的成長を目指します
- ESPEC VISION 2035のもと、「環境創造技術」をかなめとした事業活動を通じて地球環境や社会課題の解決に貢献します
- サステナビリティに関する情報開示を積極的行います

マテリアリティ

- | | |
|---------------------|---------------|
| ・グローバルな事業を通じた社会課題解決 | ・多様な人材の確保・育成 |
| ・責任ある製品サービスの提供 | ・人権の尊重 |
| ・環境への配慮 | ・デジタル技術の活用 |
| | ・グループガバナンスの強化 |

企業価値創造プロセス



装置事業

環境創造技術を駆使した製品・サービスの提供による先端技術の発展への貢献
・社会・環境課題の解決に向けた先端技術の開発に貢献する製品、サービスの提供

●環境試験器

温度や湿度などの環境因子を人工的に再現し、製品の信頼性を確保する環境試験器を提供

●エナジーデバイス装置

電気自動車(EV)などに搭載される二次電池や燃料電池の評価装置を提供

●半導体関連装置

半導体の検査用バーンイン装置や計測評価システムなどを提供



恒温恒湿器
プラチナスJシリーズ



自動車が一台入る
実車試験装置



半導体検査用
バーンインチャンバー



二次電池用
充放電評価装置

サービス事業

環境創造技術を駆使した製品・サービスの提供による先端技術の発展への貢献
・社会・環境課題の解決に向けた先端技術の開発に貢献する製品、サービスの提供

●アフターサービス・エンジニアリング

お客さまが安心して装置をお使いいただけるよう製品のメンテナンスや予防保全を実施

●受託試験サービス

環境試験で培った技術と試験ノウハウで受託試験サービスを提供



ITを活用したテクニカルサポート



国連規則など二次電池の各種安全性試験に対応
バッテリー安全認証センター

エスペックの事業

環境保全事業

生物多様性保全への貢献

生物多様性やCO2の固定化に貢献する「森づくり」のほか、自然の河川を取り戻す「水辺づくり」、在来種による「草地づくり」など自然環境を復元する環境保全事業



仙台市輪王寺参道の
復元された森



東京都 隅田川テラスにおける
水辺づくり

植物育成装置事業

地球温暖化や異常気象に対応した食の安定供給への貢献

温度や光などを制御し、効率的に野菜を生産できる植物工場や研究用装置のほか、水や養分を循環させて野菜と魚と一緒に育成するアクアポニックスなどのシステムも提供



海洋深層水を利用した植物工場
ミネラル豊富な野菜を生産・販売



乾燥地植物気候変動応答実験設備
(鳥取大学 乾燥地研究センター)

環境・エネルギー問題の解決に貢献する製品・サービス

■ 二次電池や燃料電池、太陽電池、パワーデバイスの性能や耐久性を評価する製品群



二次電池用 充放電評価装置



燃料電池用 環境試験装置



太陽電池モジュール用
温度サイクル試験システム



パワーデバイス用
パワーサイクル試験装置

■ 車載用二次電池の安全性に関する国連規則に適合した「バッテリー安全認証センター」

- ・2014年10月、第三者認証機関テュフズードジャパン(株)と業務提携
- ・2015年9月、栃木県宇都宮市に開設、2025年2月には愛知県常滑市にも開設

とちぎバッテリー安全認証センター
(栃木県宇都宮市)



■ 再生可能エネルギー100%による受託試験サービス(国内)

環境目標・環境中期計画

2030年度 環境目標

温室効果ガス排出量(2019年度比)

SCOPE 1+2(自社排出) 60%削減、SCOPE 3(間接排出) 30%削減

■2023年7月、国際的なSBTイニシアチブ※より「SBT(Science Based Targets)」認定を取得

※SBTイニシアチブ

パリ協定の目標達成に向け、企業に対して科学的な根拠に基づいた温室効果ガス排出量の削減目標の設定を推進している国際的なイニシアチブ。

CDP、UNGC(国連グローバル・コンパクト)、WRI(世界資源研究所)、WWF(世界自然保護基金)が共同で運営



第8次環境中期計画Plus II (2026年度～2027年度)

温室効果ガス排出量(2019年度比)

SCOPE 1+2(自社排出) 57%削減

＜重点テーマ＞

- ・地球温暖化対策(CO2削減)の強化
- ・生物多様性保全の推進
- ・資源循環の推進と化学物質管理の強化
- ・開示情報の充実

生物多様性保全の取り組み①

生物多様性保全活動の拠点 神戸R&Dセンター 「令和8年緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰」を受賞

- ・社員が約3万本の在来種を植樹し育てた森や、六甲北部の在来種を用いた技術開発棟の屋上緑地、2つの池と小川からなるビオトープを設置
- ・2023年10月、環境省「自然共生サイト」に認定され、OECM※として国際データベースに登録
2026年4月には、「令和8年緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰」を受賞



「緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰」表彰状

※OECM (Other Effective area based Conservation Measures): 保護地域以外で生物多様性保全に資する地域

生物多様性保全の取り組み②

生物多様性保全活動「エスベック50年の森」

- ・2022年11月、兵庫県三田市にて林野庁「法人の森林」制度を活用した森づくりを開始
- ・2024年4月までに全3回の植樹祭を開催
- ・2年間で社員などのべ約400名が参加、計12,000本を植樹



第3回植樹祭
苗は炭素固定・生物多様性機能をふまえて選定

エスベック地球環境研究・技術基金

- ・地球環境保全に関する研究・技術開発に対して毎年資金援助を実施
- ・1997年設立から27年間で、計344団体に総額1億7,391万円を助成



第28回授与式

人的資本の最大化に向けた取り組み

企業文化の良質化/組織マネジメント

- ラウンドアップ研修会、ダイレクトコミュニケーション、全社イベント、1on1ミーティング、さん付け呼称
- エンゲージメント調査、人材アセスメント、360°サーベイ
- チャレンジを生み出す評価制度

個の成長支援

- キャリア研修 ●語学学習支援
- リカレント教育 ●通信教育

会社

- 多彩な成長支援
- 活躍機会の提供

企業価値の向上

成長の喜びをシェア
従業員と経営が一体化し
活気にあふれている

従業員

- 自律的な成長
- 働きがい

経営戦略と連動した人材育成

- 次世代経営幹部の育成
- グローバル人材
- DX人材、デジタル人材

ダイバーシティ&インクルージョン 社員の健康と安全の確保

- 女性社員、シニア社員活躍推進
- 健康経営推進、メンタルヘルスケア
- 障がい者雇用率の向上
- 人権の尊重、ハラスメント教育

社会貢献活動

従業員参加型の寄付制度 「エスペックスマイルクラブ」

- ・従業員の寄付金に会社が寄付金を上乗せするマッチングギフト制度を活用し、子供と医療関係の社会貢献活動を行う団体に寄付
- ・2026年4月、特定非営利活動法人ジャパンハートへ総額1,403,900円を寄付

※「ジャパンハート」: 国内外で無償の医療サービス提供を行う日本発祥の国際医療NGO



障がい者就労農園の収穫野菜を 子ども食堂に寄付

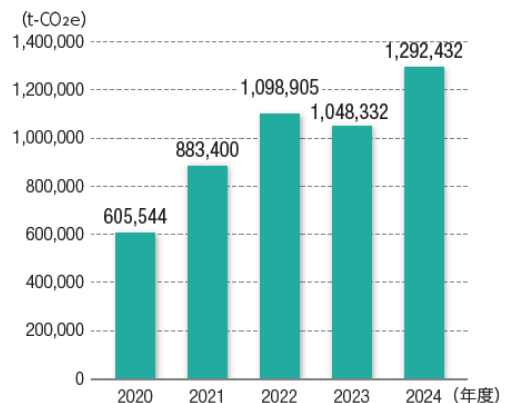
- ・障がい者就労農園「エスペックスマイルファーム」※で収穫した野菜を地域の子ども食堂へ定期的に寄付

※2021年11月、障がい者雇用支援会社が運営する貸農園内に開設。
障がいのある方3名と管理業務を行う1名、計4名を採用

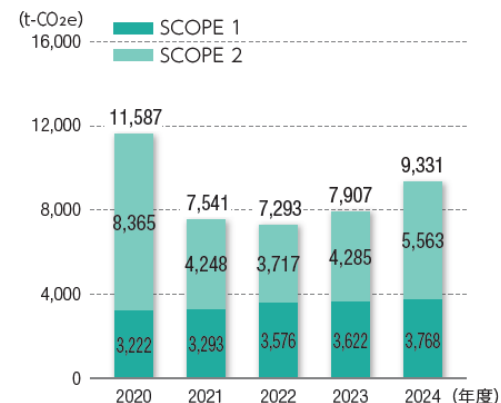


非財務データ①

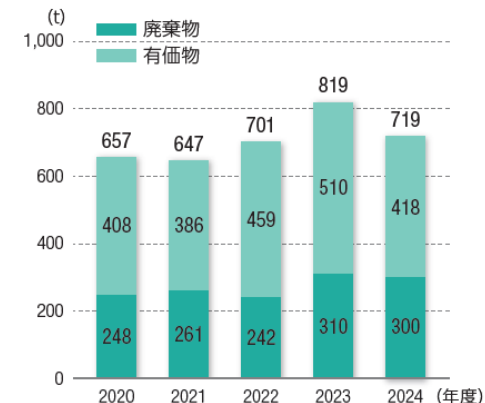
温室効果ガス排出量
SCOPE 1+2+3合計(連結※)



温室効果ガス排出量
SCOPE 1+2 (自社排出) (連結※)

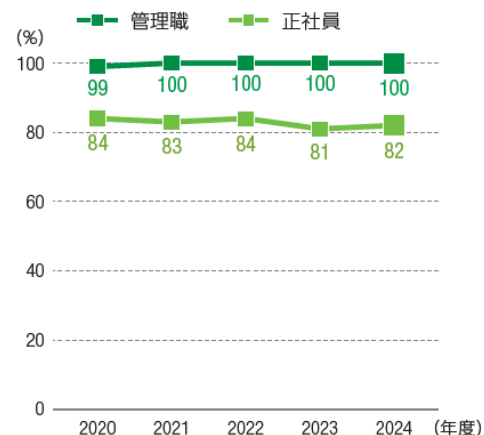


排出物総量(単体)

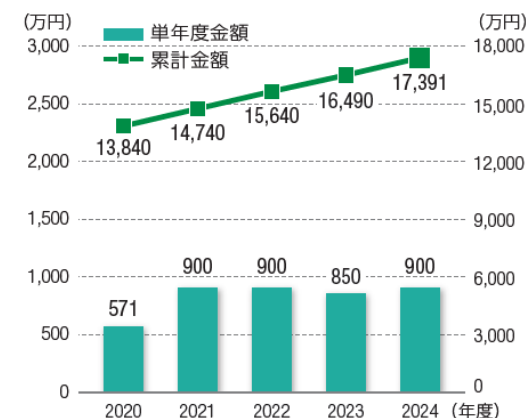


※ 2023年度は、2023年8月から連結対象となったコスモピアハイテック株式会社を除く

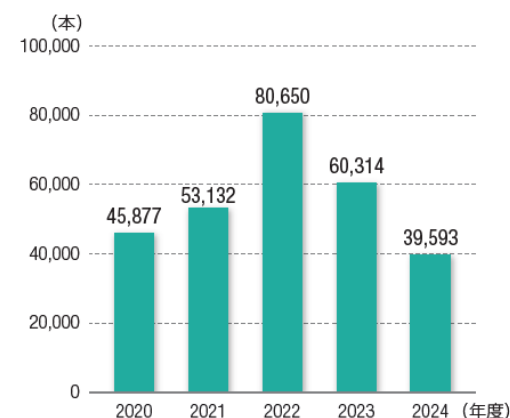
環境社会検定試験 (eco検定)
資格取得率(単体)



エスペック地球環境研究・
技術基金による助成



環境保全事業による植樹本数

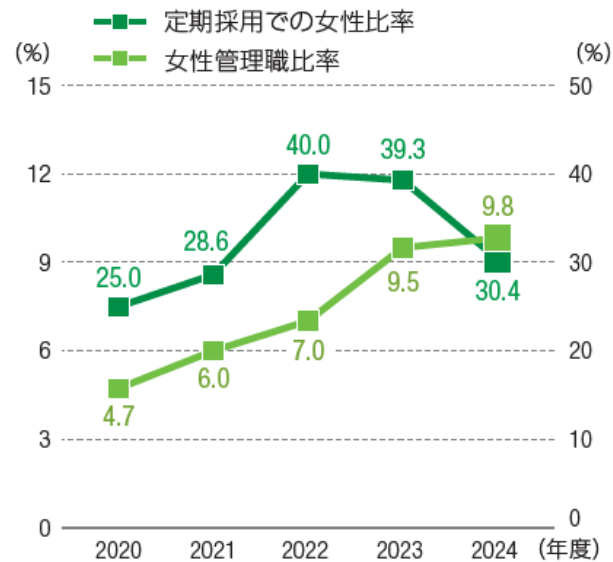


※エスペックミック株式会社 実績

非財務データ②

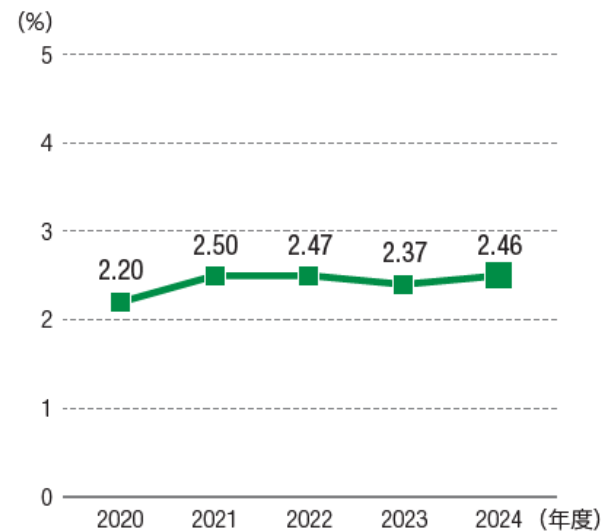
女性管理職比率

定期採用での女性比率(単体)



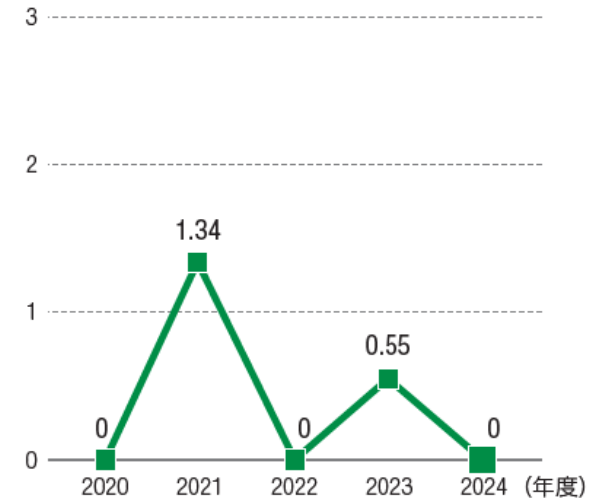
※翌年度の4月1日時点

障がい者雇用率(単体)



※各年度末時点

労働災害度数率※(単体)



※休業災害被災者数/延べ労働時間数×100万時間

非財務データ③

(年度)		2020	2021	2022	2023	2024
従業員数 ^{※1} (連結)		1,526名	1,628名	1,691名	1,775名	1,860名
従業員数 ^{※1} (単体)	男性	658名	643名	636名	633名	663名
	女性	122名	127名	142名	157名	175名
	合計	780名	770名	778名	790名	838名
平均勤続年数 (単体)		19.2年	19.1年	17.2年	17.0年	15.3年
平均年齢 (単体)		43.1才	43.0才	41.2才	41.4才	40.3才
離職率 ^{※2} (単体)		2.3%	1.6%	1.4%	3.3%	2.3%
平均残業時間 (単体)		11.0時間	15.5時間	22.6時間	20.1時間	21.9時間
年次有給休暇取得率 (単体)		65.8%	69.1%	75.1%	74.3%	77.8%
男女の平均賃金の差異 (単体)		—	—	70.3%	72.5%	73.5%
育児休業取得率 (単体)	男性	12.5%	30.8%	13.3%	52.9%	56.0%
	女性	100%	100%	100%	100%	100%
教育投資額 (単体)		—	—	101百万円	129百万円	135百万円
労働災害件数 (不休災害を除く) (単体)		0件	2件	0件	1件	0件
取締役会 ^{※3} (単体)	独立社外比率 ^{※4}	25%	25%	40%	40%	40%
	女性比率 ^{※4}	0%	0%	20%	20%	20%
内部通報件数 (単体)		0件	0件	0件	1件	0件
コンプライアンス問題の発生件数 (単体)		2件	1件	3件	2件	2件

※1 各年度末時点

※2 定年退職者を除く

※3 2022年6月、監査役会設置会社から監査等委員会設置会社に移行

※4 各年度6月末時点

社外からの評価

■ ESG関連の評価

- ・ESG指数「FTSE JPX Blossom Japan Sector Relative Index」組み入れ
ESG指数「S&P/JPXカーボン・エフィシエント指数」組み入れ
- ・CDP 気候変動分野の調査で6年連続「Bスコア」、水セキュリティは2年連続「B-スコア」
「サプライヤーエンゲージメント評価」では、4年連続最高評価の
「サプライヤー・エンゲージメント・リーダー」に選定
- ・日本経済新聞社「日経サステナブル総合調査 SDGs経営編」3.5星
- ・日本経済新聞社「日経サステナブル総合調査 スマートワーク経営編」3つ星
- ・神戸R&Dセンターが「令和8年緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰」受賞
- ・厚生労働大臣より「子育てサポート企業」として「プラチナくるみん」取得
- ・大阪市「女性活躍リーディングカンパニー」認証にて
「三つ星認証」「イクメン推進企業認証」取得

■ IRサイトの評価

- ・「Gomez IRサイトランキング」銀賞（業種別5位）
- ・「大和インターネット IR表彰」優良賞
- ・日興アイ・アール「全上場企業ホームページ充実度ランキング」最優秀サイト



この資料には、当社の現在の計画や業績見通しなどが含まれております。
それら将来の計画や予想数値などは、現在入手可能な情報をもとに、
当社が計画・予測したものであります。
実際の業績などは、今後の様々な条件・要素によりこの計画などとは異なる場合があります、
この資料はその実現を確約したり、保証するものではありません。

【お問い合わせ先】

エスペック株式会社

サステナビリティ推進部 IR・広報グループ

〒530-8550 大阪市北区天神橋3-5-6

TEL 06-6358-4744 FAX 06-6358-4795

E-mail ir-div@espec.jp

Quality is more than a word

ESPEC